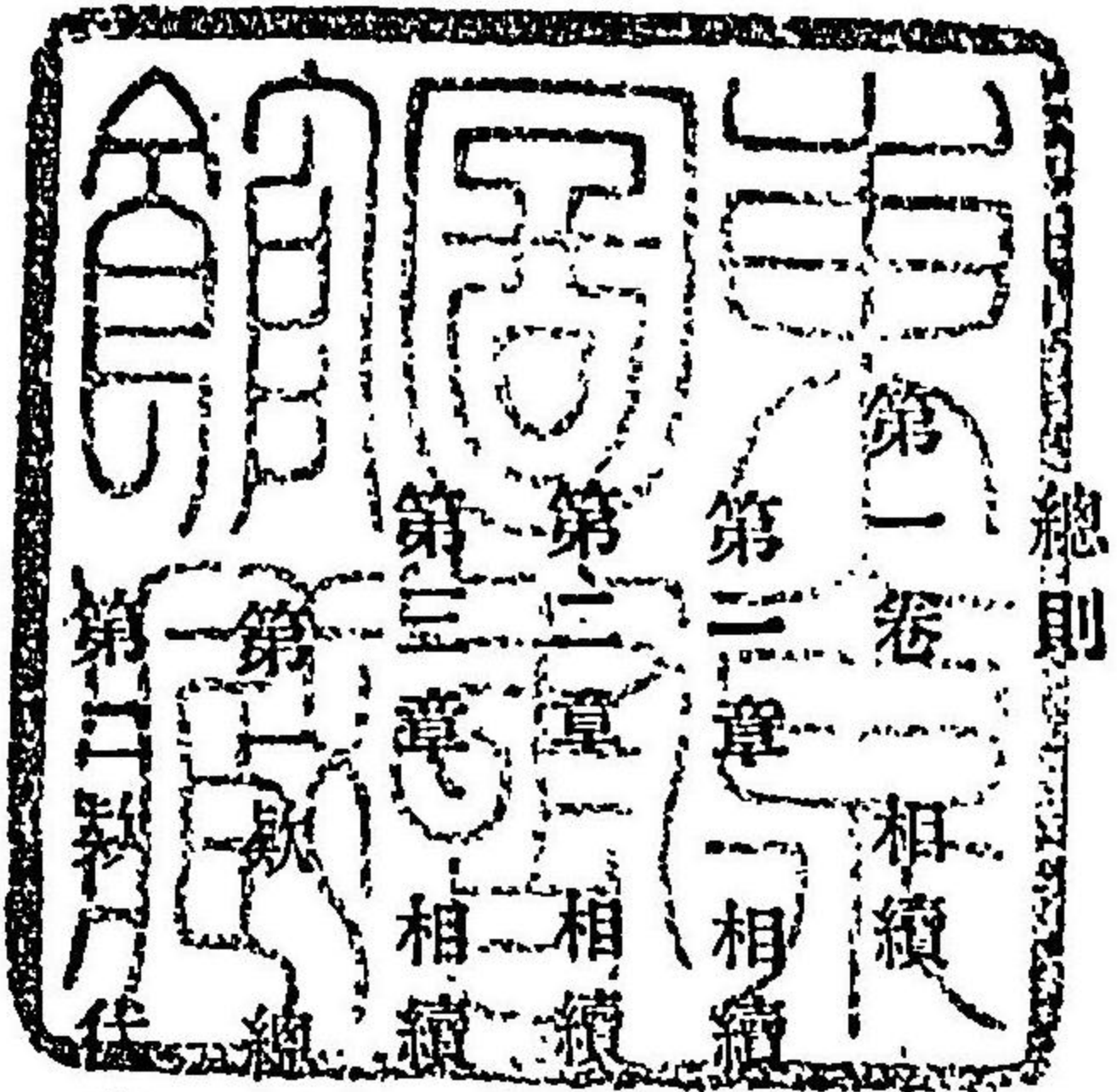


No 6990/XIII GB

1913.11.01

佛蘭西民法第三編 總則、相續、贈及遺囑篇 之部 講義目錄

第三編 所有權ヲ獲得スル種々ノ方法



總則	八	同
第一卷 相續	十一	丁
第二章 相續ノ開始及相續人ノ遺物收握	十五	丁
第三章 相續ヲ爲スニ必要ノ資格	十七	丁
第三章 相續ノ種々ノ順序	二十一	丁
第一款 總則	二十四	丁
第二款 遺囑相續	二十五	丁
第三款 卑屬親ニ歸屬スル相續	同	
第四款 尊屬親ニ歸屬スル相續	同	
第五款 傍系親ニ歸屬スル相續	二十五	丁



第四章 例外相續

二十九丁

第一款 父母ノ財産ニ付キ私生子ノ權利 三十丁

及子孫ヲ遺留セスニテ死去シタ

ル私生子ノ相續權

第二款 遺存ノ配偶者及政府ノ權利 三十三丁

第五章 相續ノ領承及其辭謝 三十五丁

第一款 領承 三十六丁

第二款 辭謝 三十九丁

第三款 目錄相續其効及目錄相續人ノ義務 四十丁

第四款 缺位相續 四十四丁

第六章 分派及ヒ返還 四十五丁

第一款 分派ノ訴訟及ヒ其法式 同

第二款 返還 四十九丁

第三款 負債ノ辨濟 五十五丁

第四款 分派ノ効及股分ノ擔保 五十九丁

第五款 分派ノ取消 六十三丁

第一卷 生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺 六十四丁

第一章 總則 同

第二章 生存中ノ贈遺及遺囑贈遺ニ因テ財 七十丁

産ヲ所置シ又ハ收受スルノ能力

第三章 所置スルヲ得ヘキ財産ノ制限及減 七十五丁

殺

第一款 所置スルヲ得ヘキ財産ノ制限 同

目錄 三

第二款 贈遺及遺囑贈遺ノ減殺 七十八丁

第四章 生存中ノ贈遺 八十八丁

第一款 生存中ノ贈遺ノ法式 八十八丁

第二款 生存中ノ贈遺ハ確定タル規則ノ 九十五丁

例外

第五章 遺囑ノ贈遺 百四丁

第一款 遺囑贈遺ノ法式ニ付テノ總則 同

第二款 或ル遺囑贈遺ノ法式ニ特別ノ規則 百八丁

則

第三款 遺物相續人ヲ選定スル事及一般 百十丁

ニ遺囑贈遺ノ事

第四款 包括ノ遺囑贈遺 百十三丁

第五款 包括名義ノ遺囑贈遺 百十九丁

第六款 特定名義ノ遺囑贈遺 百二十二丁

第七款 遺囑贈遺ノ執行者 百二十四丁

第八款 遺囑ノ贈遺廢棄及其消滅 百二十八丁

第六章 贈遺者又ハ遺囑者ノ孫又ハ兄弟姉 百三十六丁

妹ノ子ノ爲メニ爲シタル贈遺

第七章 父母又ハ其他ノ尊屬親其卑屬親ノ 百三十八丁

間ニ分派ヲ爲ス事

第八章 婚姻ノ契約ニ由リ夫婦及婚姻ヨリ 百四十一丁

生スヘキ子ノ爲メニ爲ス生存中ノ

贈遺

第九章 夫婦財產契約又ハ結婚中夫婦ノ間 百四十四丁

目錄

佛蘭西民法相續及贈遺遺囑篇講義

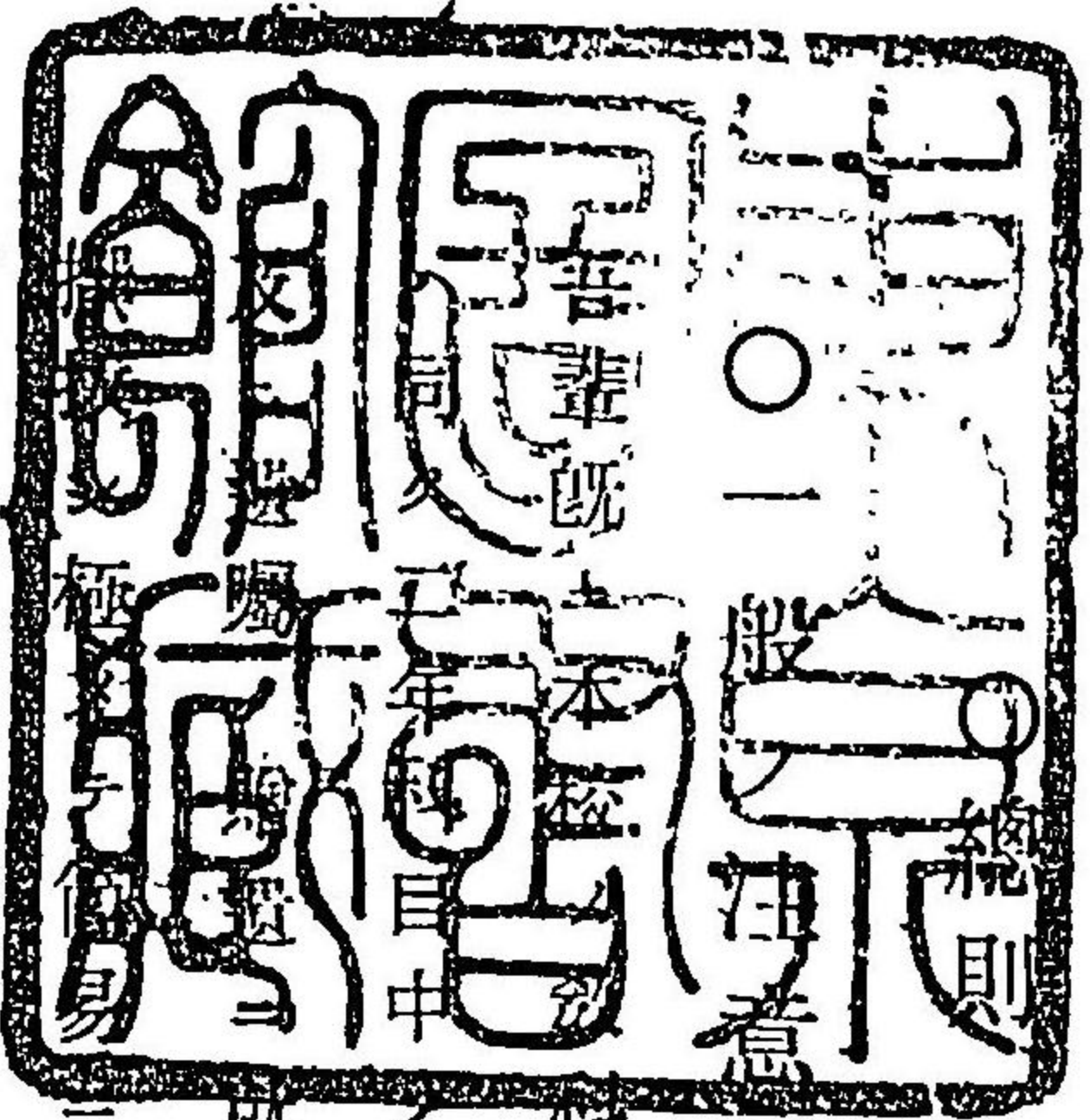
第三篇 所有權ヲ獲得スル種々ノ方法

十五

日本法律學士

矢代

操君講述



爲サ、ルナリ諸君之ヲ諒セヨ

此三篇ノ編纂方法ニ就テハ學者中往々之ヲ批難スル者アルカ如ク其當チ得サル所アリト雖トモ今爰ニ之ヲ論スルモ敢テ其益ナキニ由リ

總則

一



吾輩ハ先ツ法律所定ノ順序ニ從ヒ説明スルヲアラントス我カ民法草案ニ於テハ第三編第一部ニ於テ特定名義ニテ獲得スルノ方法ヲ規定セリ此ノ編纂法ハ佛蘭西ニ比スレハ大ニ其完全ナルヲ知ル故ニ諸君ハ該草案第千百一條ニ就テ宜シク參考ヲ爲ス可シ

○所有權ヲ獲得スルノ方法

所有權ヲ獲得スルノ方法ヲ大別シテ原有[○]支有[○]ト爲ス其原有[○]トハ例ヘハ或人ニ於テ何人ニモ属セサル物件ノ所有者ト爲ルカ如キ根元ノ方法ヲ云ヒ支有[○]トハ物件ノ所有者ヨリ之ヲ讓渡スニ由リ或人ニ於テ獲得シタルカ如キ支分[○]ノ方法ヲ云フナリ故ニ先占[○]ハ根元[○]ノ方法ニシテ合意[○]ハ支分[○]ノ方法ナリ何トナレハ先占[○]ハ無主ノ物件ヲ最モ先キニ占有[○]シ(例ヘハ狩獵ニ由テ獲タル禽獸ノ如シ)合意ハ他人ノ所有物ヲ自己ノモノト爲スカ故ナリ

其他[○]特定[○]ノ名義[○]若クハ包括[○]ノ名義[○]ニテ獲得スルアリ特定名義ニテ獲得スルトハ特別ニ指定シタル一個若クハ數個ノ物件ヲ獲ルヲ云ヒ包括ノ名義ニテ獲得スルトハ某物件ト示定セスシテ廣ク指定スルヲ云フ例ヘハ正當相續又包括名義ノ遺囑贈遺ノ如シ此義ニ就テハ他日説明スルコトアル可シ

第七百十一條及ヒ第七百十二條ニ所有權ヲ獲得スルノ方法ヲ小別シテ其七個ヲ列記セリ 第一 遺物相續 第二 生存中ノ贈遺 第三 遺囑ノ贈遺 第四 附添若クハ結合 第五 義務ノ効 第六 時効 第七 埋藏物ノ發見

斯ノ如ク列記シタル所有權ヲ獲得シ及之ヲ讓渡ス方法ノ各個ニ付キ説明ヲ爲スハ無益ナリト信スルニ由リ之ヲ爰ニ贅セス何トナレハ其各個ニ就キ各其特別規則アリテ其各章ニ就キ各教員諸君ヨリ講述セ

總則

ラル、トアルカ故ナリ唯茲ニ注意スヘキハ所有權ヲ獲得スルノ方法ハ其二個條ニ記スルトコロノモノ、ミニアラスシテ他ニ尙ホ其方法アルコトヲ忘ルヘカラサル是レナリ故ニ右ノ順序ヲ追フテ列記スヘキモノ左ノ如シ 第八 先占即チ未ダ何人ニモ属セサル物ヲ最モ先キニ占有スルヲ 第九 引渡 オキニシヨシ 第十 法律 ○是ヲ以テ之ヲ觀レハ所有權ヲ得ルノ方法ハ之ヲ十個トス

○義務ノ効

右第五ノ場合ニ義務ノ効ニ因テ所有權ヲ獲ルト記スルハ立法者ノ錯誤ナリ何トナレハ合意ノ効ニ因テ所有權ヲ得ルモ義務ノ効ニ因テ之ヲ得サレハナリ蓋シ義務ノ効ヨリ生スルモノハ債權者カ債務者ニ對シ強制手段ヲ行フニ過キス例ヘハ損害賠償又ハ或ル場合ニ於テ債務者ノ禁錮及其財産ヲ差押ユル等ノ如シ右ノ如ク立法者ノ錯誤シタル

原因ヲ索スルニ羅馬及佛蘭西ノ古法ニ於テ契約ハ唯義務ヲ生スルノミニシテ所有權ヲ讓渡サス其所有權ノ讓渡ハ契約ノ後物ノ引渡ニ由テ成立ツナリ故ニ契約ハ所有權ヲ讓渡スノ義務ヲ生セシメ而シテ其義務ハ契約ノ目的物即チ所有權ヲ讓渡スニアレハ立法者ハ茲ニ着目シテ義務ノ効ニ由テ所有權ヲ得ルモノト誤信シタルナリ然ルニ今日ノ法律ハ所有權ノ讓渡ハ義務ノ生スルト同時ニ契約ノ直接ノ効ヨリ生スルナリ故ニ右第五ハ義務ノ効ト記セスシテ契約ノ効ト記スルヲ要ス

○埋藏物發見

右第七ノ場合ニ記スル埋藏物トハ何人モ其所有權ヲ證明スルヲ得ス偶然發見シタル隱藏若クハ埋藏シタル物件ヲ云フ此所有權ヲ獲ルニ種々ノ場合アリ

第一 土地ノ所有者ニ於テ自己ノ地内ニ自ラ埋藏物ヲ發見セシトキハ其全所有權ヲ獲得スヘシ此場合ニ於テ何人モ之ニ故障ヲ述フルヲ得ス何トナレハ其物件所有者ノ知レサルカ故ナリ又此場合ニ於テハ之ヲ所有主ナキ財産トシテ政府ニ屬スヘシト論スル者アレハ此論タル條理ニ適セストス何トナレハ此場合ニ於テハ所有主ナキニアラスシテ其主ノ知レサルモノナレハナリ又此埋藏物發見ハ法律ニ因テ所有權ヲ獲得スル方法中ニ包含スト爲ス者アレトモ吾輩ハ之ヲ一種ノ獲得方法ト爲スナリ何トナレハ若シ之ヲ法律ニ因テ所有權ヲ獲得スル方法トスルトキハ人定法ナキ國ニ於テ之ヲ所置スルノ方法ニ苦シムカ故ナリ

第二 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏物ヲ發見スル時其一半ハ土地ノ所有者ニ又其一半ハ其發見者ニ屬ス可シ是レ誠ニ巧良ノ法ナリ例ヘハ

建築ヲ爲ス場合ニ於テ若シ其職工ニ於テ土中ヨリ埋藏物ヲ發掘スル時之ヲ先占ト看做ストキハ其全部ヲ職工ニ與フルヲ要ス然レトモ吾輩ノ既ニ陳述セルカ如ク其物件タル主ナキニアラス唯主ノ知レサルナレハ其全部ヲ與フルヲ得ス然ラハ其全部ヲ土地ノ所有權ニ與ヘン歟是亦不正ト云フ可シ何トナレハ一ハ職工ノ熱心シテ勞働スル所ヲ害ヒ一ハ之ヲ隱匿スルカ如キ危險ヲ生スルカ故ナリ是レ其平等ノ部分ニ分ツヲ以テ正當トスルナリ然ル時若シ數人ノ職工アルトキハ其一半ヲ數人ノ間ニテ平分スヘキナリ

第三 土地ノ所有者ニ於テ埋藏物ヲ發見スルノ意ヲ以テ之ヲ發掘セシメタルトキハ其全部ヲ自己ノ有ト爲シ其發掘者ニハ相當ノ給料ヲ拂フヲ以テ足レリトス何トナレハ此場合ニ於テハ第二ノ場合ニ於テ陳述シタルカ如キ原則ヲ適用スル能ハサルカ故ナリ

先ツ是ニ於テ本編總則ノ大体ヲ述ヘタリ其詳細ハ諸君第七百十一條乃至第七百十七條其他各法ノ講義例ヘハ遺物相續生存中ノ贈遺又ハ時効法ノ講義及ヒ日本草案即チ第三編第千百一條以下ニ就テ了知スル所アラントス

第一卷 相續

シユクセシヨシヨシ

○一般ノ注意

吾輩今此相續法ヲ講スルニ當リ之ヲ我カ日本ノ相續法ニ比スルニ其間大ニ徑庭スル所アリ夫レ佛蘭西ノ相續法ハ死者ノ遺産ニ就キ相續チナスヘキヲ以テ之ヲ遺物相續ト云ヒ同等親間ニテハ平等均一ニ相續ヲ爲スヲ原則トスト雖トモ日本ノ相續法ハ財産ヲ目的トセス唯家名ヲ承繼スルヲ目的トスルヲ以テ之ヲ跡名相續或ハ跡式相續ト云フナリ此相續法タル長子相續ノ法ニシテ一家ノ財産ハ總テ長子相傳ノ

二十二

二十三

原則ナリ是レ全ク封建制ノ致ス所ナリ何トナレハ封建制度ニ於テハ家名ヲ相續ス可キ男子ナキ時ハ其家斷絶スルヲ以テナリ今ヤ王政維新以來尙ホ其舊制ヲ變セスト雖トモ男女ノ別ナク家名ヲ相續スルヲ得ルハ少シク其制ヲ變シタルモノ、如シ
斯クテ佛蘭西ノ如キ財産相續法ヲ可トセン歟或ハ其跡名相續即長子相續ヲ可トセン歟ノ問題ニ至テハ一朝一夕ノ論ニアラスシテ此講義ノ能ク論決スヘキ所ニアラス然レトモ吾輩ノ持論ハ到底今日ニ於テ跡名相續ハ無用ニシテ長子相續ハ不正ナリト云フニ過キサルナリ何トナレハ長子相續法ニ依ルトキハ社會ノ活潑心ヲ挫キ且ツ二三男女ヲ指シテ俗ニ所謂冷飯及髓咬ト云カ如ク同一人間ヲシテ社會ノ下等人タラシメ遂ニ社會一部ノ人ヲシテ名狀スヘカラル慘狀ニ陥ラシムルノミナラス兄弟姉妹ノ間ニ齟視スルノ狀ヲ顯ハシ親族間ニ不和

ヲ釀生スルノ嘆ナキ能ハサルカ故ナリ其他種々ノ弊害アリト雖トモ今之ヲ茲ニ畧ス

扱テ此財産相續法ノ自然法ニ適スルヤ否ニ至テハ是亦一大問題ニシテ一講義ノ能ク盡スヘキ所ニアラス然レトモ其自然法ニ適スルコトハ吾輩ノ信シテ疑ハサル所ナリ何トナレハ親族互ニ相輔翼ストハ社會ノ通理ナレハナリ故ニ例ヘハ父タルモノハ其子ニ對シ唯養料ヲ與フルノミニニシテ足レリトスルヤ未タ然ラス若シ其子ノ幼年ナルトキハ自活ノ途ヲ立ツル能ハサルヲ以テ其死後ハ自己ノ財産ヲ讓リ與フルヲ以テ始メテ満足スルナリ其他ノ血族親ニ至テモ尙ホ然リ死者ノ富貴ナル時ハ其一部ヲ讓リ後來之ヲ扶助スルハ當然ナリ死者ノ意ニ於テモ亦之ヲ希望スルヤ明カナリ

○相續ノ定義

相續トハ死者ノ位置ヲ踏ミタル一人又ハ數人ニ其財産及負擔ヲ讓渡シ且ツ之ニ相續人ノ名義ヲ與フルヲ云フ其讓渡ヲ人爲ニ因テ爲ストキハ之ヲ遺囑ノ贈遺又ハ契約上ノ相續ト云ヒ若シ死者ニ於テ相續人ヲ指定セサルトキハ法律ニ於テ之ヲ定ム然ルトキ之ヲ正當ノ相續人ト云フナリ

第一章 相續ノ開始及相續人ノ遺物収握

○相續ノ開始

第七百十八條ニ依レハ遺物相續ハ自然ノ死○去○ト○准○死○ト○ニ因テ開始ス其准死ハ今日ニ廢止セラレタルヲ以テ相續開始ノ原因ハ唯自然ノ死去アルノミナリ故ニ死者ノ財産及ヒ權利ハ其死ニ因テ直チニ相續者ニ移轉ス此場合ニ於テ其相續人ハ死者ニ屬スル財産及ヒ權利ノ所有權ト占有權トヲ収握スルナリ此収握ナル語ハ後ニ説明スルコトアル

若シ數人同一ノ事變例ヘハ破船又ハ火災等ニテ死去セシトキ何レモ皆相續ヲ爲スノ權ヲ有スルモノニシテ互ニ其順序ヲ異ニスルトキハ其死去ノ前後ヲ思料スルヲ要ス何トナレハ其一人ノ相續ヲ爲シタル者ハ之ヲ其自己ノ相續人ニ轉讓スルコトヲ得ヘケレハナリ例ヘハ甲乙ノ兄弟共ニ破船ノ爲メニ溺死ス而シテ此兩人ハ既ニ婚姻ヲ爲シタルモノナリ此場合ニ於テ其甲乙ノ相續ヲ爲ス等親ナキニ由リ其婦ニ於テ相續ヲ爲スヘキナリ是ニ於テ若シ甲ハ乙ヨリモ先キニ死セリト思料スルトキハ乙ノ婦ハ其夫即乙ノ相續ヲ爲スハ勿論夫即乙ノ名義ヲ以テ甲ノ遺物ヲモ相續スルヲ得ヘシ又タ是ト同シク乙ハ甲ヨリ先キニ死去セリト思料スルトキ甲ノ婦ハ夫即甲ノ相續ヲ爲スハ勿論甲ノ名義ヲ以テ乙ノ遺物ヲモ相續スルヲ得ヘキカ如シ

其思料ヲ爲スノ方法ハ第七百二十一條及ヒ七百二十三條ニ就テ見ル可シ

○相續ノ開始場所

第一百十條ニ從ヘハ相續ハ死者ノ住所ニテ開始スルヲ例トス故ニ遺物ニ關シ訴訟ノ生スルトキハ死者カ死去ノ時ノ住所ノ裁判所ニ訴フ可キヲ要ス然レハ則死者ノ住所ヲ知ルハ最モ緊要ナリ此問題ハ民法第一編ノ原則ニ就テ決スルヲ要ス

○相續者

死者ノ相續ヲ爲ス者ニ種々アリ

第一 正當ノ相續人 即チ正當ノ婚姻ヨリ生シタル血屬ヲ云フ

第二 例外相續人 斯ノ如ク例外ト稱スル所以ハ親族トナリテ相續

ヲ爲サ、ルカ故ナリ例ヘハ私生ノ血屬即私生子、私生ノ父母及私生ノ

兄弟姉妹ノ如シ

第三 配偶者 此配偶者ハ正當ノ相續人及私生子ナキ時ニ相續スルナリ

第四 政府或ル場合ニ於テハ救育院ニテ相續スルコトアリ

第五 或ル財産ニ關シ法律上獲得ノ權ヲ有スル者 例ハ養親若クハ其卑族親(第三百五十一條及第三百五十二條)生存中ノ贈與者ノ尊屬親(第七百六十七條)私生子ノ正當ノ兄弟姉妹(第七百六十六條)及或ル宗教會若クハ或宗教上ノ公舍(第千八百二十五年五月二十四日及第千八百七十五年七月十二日ノ法律)ノ如シ

○收握

收握トハ法律上死者ノ死去シタルヤ否ヤ直チニ如何ナル意ヲ表セスシテ死者ノ權利及負擔カ其相續者ニ移轉スルヲ云フ蓋シ正當ノ相續

者ハ此收握權ヲ有スルモノナリ故ニ正當ノ相續者ハ第七百二十四條ニ從ヒ假令相續者ニ於テ相續ノ開始シタルヲ知ラスト雖トモ死者ノ死去スルヤ否ヤ法律上當然其財産ヲ占有セリト看做スナリ然レトモ此收握權ハ相續者ニ於テ隨意ニ拋棄スルヲ得ヘシ 例外相續者即チ私生子夫婦及ヒ政府ノ如キハ正當ノ相續者ト同シク收握權ヲ有スト雖トモ裁判ノ力ニ依ラサレハ之ヲ占有スル能ハサルハ其正當ノ相續人ト異ナル所ナリ

○第二章 相續ヲ爲スニ必要ノ資格

○相續ヲ爲スヲ得ヘキ資格

茲ニ如何ナル人ヲ以テ相續人トスルヤヲ知ラントスルニハ先ツ相續人トナルヲ得サル者ハ如何ナル人ナルヤヲ知ルヲ要ス爰ニ其相續人トナルヲ得サル者ニ二種アリ第一無能力者第二無格位者ナリ故ニ第

七百二十五條ニ於テハ相續ヲナスノ無能力者ヲ記シ第七百二十七條ニ於テハ相續ヲナスノ無格位者ヲ記スルナリ是ヲ以テ相續ヲナスニ必要ノ資格ハ無能力ニアラス且無格位ニアラサル者ニ限ルナリ其無能力ト無格位トハ全ク別異ナルヲ以テ決シテ之ヲ混同スヘカラス斯クテ其無能力トハ相續開始ノ時相續ヲナスニ必要ナル資格ナキモノヲ云フ故ニ此時其資格ナキモノハ相續者ニ在ラス又収握權ヲ有セス何トナレハ是等ノ人ハ如何ナル權利ヲモ得ルノ能力ナキカ故ナリ之ニ反シ無格位トハ法律上相續ヲナスニ必要ナル資格ヲ有シ且ツ収握權ヲ有スト雖トモ無格位タルノ原因アルニヨリ裁判宣告ニ由リ其權ヲ剝奪セラレタルモノヲ云フ故ニ無能力タルコトハ法律上當然生ス可シト雖モ無格位ハ民事裁判所ニテ之ヲ宣告シタル後ニアサレハ生セサルナリ

第三章 相續ノ種々ノ順序

第一款 總則

○親族ノ組織

正當ノ相續ヲ爲スノ基礎ハ正當ノ血屬親ヨリ生スル親族ノ聯脈ニアリ而シテ其血屬親ニハ父方ノ血屬ト母方ノ血屬トアリ父方ノ血屬トハ其父方ヨリ出ツルモノヲ云ヒ母方ノ血屬トハ母方ヨリ出ツルモノヲ云フ斯ノ區別ハ相續法中最モ緊要ナルモノナリ又死者ノ父系トハ其父方ノ血屬タル總テノ人ヲ云ヒ死去ノ母系トハ其母方ノ血屬タル總テノ人ヲ云フ故ニ父系ト云フトキハ死者ノ父方ノ血屬親ノミナラズ尙ホ其父方ニアル母方ノ血屬ヲモ包含ス故ニ死者ノ父ノ母及ヒ其母方總テノ尊屬親及ヒ其卑屬親並ニ其傍系親ハ皆死去ノ父ノ母及ヒ其之レト同シク死者ノ母ノ父及父方ノ尊屬親及其卑屬親並ニ其傍系親

ハ總テ死去ノ母系ニ屬ス
爰ニ於テ尊屬親又ハ傍系親ニ歸屬シタル遺物ハ父系ノ血屬ト母系ノ血屬トノ間ニ平等ニ分配ス可シ故ニ某血屬ノ如何ナル系ニ屬スルヤヲ知ルコト寔ニ緊要ナリトス若シ右ノ場合ニ於テ遺物ヲ兩分シタル時其各系中ニテハ其最親ノ等級ニ於ケル相續人ノ一人又ハ數人ニテ相續ス可シ

然レトモ爰ニ兩系ニ就テ遺物ノ配分ヲ受クル相續人アリ即チ同父母ノ血屬親是ナリ其理由ハ此血屬親ハ其父方及其母方ニ就キ死者ニ關係アルカ故ナリ又單ニ一系ノミニ就テ其分配ヲ受クルハ其父方ニ就テ死者ニ關シ或ハ其母方ニ就テ死者ニ關係スレハナリ例ヘハ異父異母ノ親ノ如シ(第七百三十三條參觀)其兩系ニ由テ死者ニ連結スル血屬親ヲ考フルニ死者ノ卑屬親ハ父方ト母方トノ血屬ナリ何トナレハ其

卑屬親ハ父母双方ヨリ出テタルコト明カナレハナリ
之ニ反シ死者ノ尊屬親ハ一系ニ就テノミノ血屬親ナリトス何トナレハ尊屬親ハ其父方又ハ其母方ニ關係スルカ故ナリ故ニ死者ノ母ノ尊屬親ハ母系ニ就テノミ死者ノ血屬親タリ又死者ノ父ノ尊屬親ハ父系ニ就テノミ血屬親ナリトス是ヲ以テ民法ハ遺物ヲ二分シ其兩系ニ於テ平等ノ分割ヲ爲スヲ欲スルニアリ
又傍系親ニハ死去ノ父方ト母方トノ血屬タルト父系又ハ母系ノ一系ニ就テノミ血屬親タルトノ區別アリ其兩系ノ血屬親タル傍系親ハ例ヘハ死者ト同父母ノ兄弟姉妹ヲ云ヒ又一系ニ就テノミ血屬親タル傍系親ハ例ヘハ同父異母兄弟姉妹又同母異父兄弟姉妹ヲ云フナリ是ニ於テ相續ヲ爲ス者ノ順序ヲ考フレハ之ヲ分テ四個トナスヲ要ス
第一 子若シハ卑屬親 第二 兄弟姉妹及父母ト共ニ相續スヘキ其

卑屬親或ハ若シ父母共ニ生存セサルキハ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ノミ
ニテ相續ス 第三 兄弟姉妹ニ由テ除去セラル、所ノ父母ヨリ他ノ
尊屬親 第四 兄弟姉妹又ハ其卑屬親ヨリ他ノ傍系親

愛ニ注意スヘキハ相續ハ等親ノ親疎ニ由テ爲スニアラス其順序ニ由
テ爲スヲ知ルニアリ故ニ某血屬親ハ死者ニ相續スヘキヤ否ヲ知ル
ニハ其等親ヲ搜索セスシテ先ツ其順序ヲ探究スルヲ要ス是ヲ以テ第
二等親ノ卑屬親ハ假令死者ノ父ハ第一等親ナルモ之ヲ除去シテ相續
ス其理由ハ其卑屬親ハ第一ノ順序ニ屬シ父ハ第二若クハ第三ノ順序
ニ屬スルカ故ナリ今此ニ此ノ規則ヲ觀察スル時ハ或ハ相續ノ方法ニ
於テ財産ヲ讓渡スノ原則ニ矛盾スルカ如シ何トナレハ相續法ノ基本
トスル所ハ血縁ニ依ルモノニシテ最近ノ血屬親ハ最遠ノ血屬親ヲ措
テ相續スヘシト云フニアレハナリ然レトモ人ノ情愛ハ等親ノ親疎ニ

拘ハラス必ス子孫ニ卑下シテ上進セストハ自然ノ法ナリ故ニ死者ノ
子孫ニシテ其父ニ先ン相續ヲ爲スハ自然ノ法ナリトス實ニ人ニシ
テ其子孫ニ對スル情愛ハ其父母ニ對スル情愛ヨリモ一層深密ナルハ
掩フヘカラサル自然ノ勢ヒナリ

第二款 代襲相續

○定義

茲ニ於テ考フルニ相續ヲ爲スノ方法ニ二個アリ自己ノ名義ニテ相續
ヲ爲スト代襲ノ名義ニテ相續ヲ爲スト是ナリ蓋シ其自己ノ名義ニテ
相續ヲ爲スヲハ既ニ陳述シタルカ如ク渾テ血屬親ハ相續ヲ爲スヘキ
至當ノ身分ヲ有シタル時即其無能力又ハ無資格ニアラサル以上ハ自
己ノ名義ニテ相續ヲ爲スヘシ然レトモ代襲相續ハ被代襲人ノ權利ニ
代襲人ヲ代ラシムルノ効ヲ生スル法律上ノ想像ニ成立ツモノナリ何

ヲ以テ法律上ノ想像ト云フトナレハ子タル者ニ於テ其父母死者ヨリ先ニ死去シタル時其相續スヘキ等親ニ進入シ死者ノ他ノ子孫ト同地位ニ在テ相續スルヲ以テナリ故ニ此法律ハ例外法ニシテ立法者ノ定メタル或ル相續人ニ限リ此代襲相續ノ利益ヲ受クルナリ此利益ヲ受クル相續人トハ如何ナルモノナルヤノ義ニ至リテハ是レヨリ後ニ説明セントス

○代襲相續人

代襲相續ノ利益ヲ受クヘキ者ノ數ハ僅少ニシテ凡テ相續者ハ皆代襲相續ヲ爲スヲ得ヘキモノト思考スヘカラス其代襲相續ヲ爲スモノハ左ノ如シ

第一 直系ノ卑屬親ニ於テハ無限ニ承繼スルコト

第二 傍系ノ親ニ於テハ兄弟姉妹ノ卑屬親ノ爲メ無限ニ承繼スル

7

右ノ外尊屬親及第二ニ記スル他ノ傍系親ハ代理相續ヲ爲スヲ得サルナリ蓋シ法律ノ目的ハ相續自然ノ順序ニ於テ成ルヘク混乱ヲ生スル結果ヲ避クルニアルナリ

○代襲相續法ヲ設ケタル趣旨

若シ死者ニ先シテ相續者ノ死去スルトキ既ニ死去シタル者ハ相續ヲ爲スヲ得ストノ原則ニ止ルトキハ其先ニ死去シタル親屬ノ爲メニ得ヘキ資産ハ全ク之ヲ消失スルニ至ルヘシ是レ實ニ無情ノ結果ナリ何トナレハ今父母ノ死去スルニ當リ孤兒ノ不幸ヲ見テハ必ス之ニ自己ノ受クヘキ財産ヲ與ヘンコトヲ欲スル之レ自然ノ情ナリ然ルニ先ニ死シタルヲ以テ相續ヲ爲サシメサルトキハ孤兒ヲシテ不幸ニ陥ラシムルハ勿論死者ノ意ニモ亦反スルカ故ナリ

今茲ニ注意スヘキハ代襲相續ヲ爲スハ死者ヨリ被代襲者ノ先[○]死[○]去[○]シタルコトヲ知ルニアリス[○]テ第七百三十九條ニ代襲相續トハ代襲者ヲシテ被代襲者ノ地位等親及權利ヲ占得セシムルヲ以テ目的トストアリ是ヲ以テ考フレハ若シ父母ノ生存スルトキ其子ハ如何シテ其地位ヲ踏ムヘキヤ又如何シテ其充滿シタル等親ニ其子ヲ進入セシムルヲ得ヘキヤ決シテ夫ノ先死ノ事ヲ想定セサル以上ハ代襲相續ノ想像ハ成立サルナリ又其權利ト云フモ若シ父ノ生存スルコト於テハ占得スヘキ權利ナケレハ同ク其先死シタルコトヲ要スルナリ故ニ相續ヲ辞シタル者又ハ無能力者又ハ無資格者ノ如ク生存シテ相續ヲ爲サル者ニ就テハ代襲相續ヲ爲ス能ハサルナリ

第三款 卑屬親ニ歸屬スル相續

第四款 尊屬親ニ歸屬スル相續

第五款 傍系親ニ歸屬スル相續

此三款ハ皆相續ヲ爲スノ順序ヲ規定シタルモノナレ^レ余ハ本篇ノ總則第一款ニ於テ其大畧ヲ陳述シタルハ今又之ヲ茲ニ細説セス然レトモ此三款ニ記スル相續ヲ爲スノ順序ヲ見ルニ之ヲ五段ニ分ツテ得ヘ

○第一 卑屬親

子又ハ其卑屬親ハ第一ノ順序ニ位スルヲ以テ他ノ血屬即尊屬及傍系ノ血屬親ヲ除去シテ皆平等ノ部分ニテ相續ヲ爲スヲ得ヘシ此卑屬親ニ就テハ第七百四十五條ニ記スルカ如ク男女又ハ出生前後ノ別ナシ又ハ特別ノ婚姻ヨリ出生シタルヲ問ハス既ニ述ヘタル理由ニ因リ同等ノ權ヲ以テ父母祖父母又ハ其他ノ尊屬親ノ相續ヲ爲スヘキナリ

○第二 特權ヲ有スル尊屬親及傍系ノ親

特權ヲ有スル尊屬親トハ死者ニ兄弟姉妹アル時其父母ヲ云フモノニシテ又特權ヲ有スル傍系ノ親トハ死者ノ兄弟姉妹及其卑屬親ヲ云フナリ是等ノ血屬親ハ死者ニ十二等親マテノ卑屬親ナキトキニ相續スヘキナリ故ニ第七百四十八條ニ由リ死者ニ子孫ナクシテ其父母及兄弟姉妹又ハ其卑屬親ヲ遺留セシ時其相續ハ平等ニ二分シ其一半ハ父母ニ歸屬シ父母ノ間ニテ更ニ之ヲ平分スヘシ又他ノ一半ハ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ニ歸屬スルナリ然レトモ此場合ニ於テ父又ハ母ノ一方既ニ死去シタルトキ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ハ其死去シタル一方ノ者ノ部分ヲ合セテ相續スルヲ得ヘシ

○第三 通常ノ尊屬親

此尊屬親トハ死者ニ子孫及ヒ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ナキ時相續スルモノヲ云フモノニシテ即第七百四十六條ニ於ケルカ如シ該條ニ曰ク

(死者若シ子孫兄弟姉妹又ハ其卑屬親ヲ遺留セサリシ時相續ハ父系ノ尊屬親ト母系ノ尊屬親トノ間ニ之ヲ平分ス○最親ノ等級ノ尊屬親ハ他ノ尊屬親ヲ除去シテ其系ニ屬スル一半ヲ収得ス可シ○同等ノ尊屬親數人ハ分頭ニテ相續ヲ爲ス可シ)ト本條ノ尊屬親中ニハ死者ノ父母ヲ含蓄スルヲ以テ見レハ父母ハ第二第三ノ順序ニ於テ相續ヲ爲シ第二ノ順序ニ於テハ特權ヲ有スル傍系ノ親ト共ニ相續ヲ爲シ第三ノ順序ニテハ各遺物ノ半分ヲ相續ス然レトモ父母既ニ死去シ又死者ニ兄弟姉妹ナキトキハ祖父母又ハ其他最近ノ尊屬親ニ於テ相續スルナリ

○第四 一系ノ通常傍系親

此傍系親ハ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ヲ除クノ外父系又母系ノ伯叔父母其他從兄弟姉妹等ノ如キ十二等親迄ノ傍系親ヲ云フモノニシテ此傍

系親ハ第七百五十三條ニ從ヒ死者ニ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ナク又ハ父系若クハ母系ニ於テ尊屬親ナキ時遺物ノ一半ハ遺存スル尊屬親ニ歸屬シ他ノ一半ハ他系ノ最近ノ血屬親即傍系親ニ歸屬ス可シ此場合ニ於テ同等ノ傍系親中ニテ共ニ相續ヲ爲ス時ハ分頭ニ分派ヲ爲ス可キナリ

○第五 兩系ノ通常傍系親

此順序ハ父系及母系ノ兩系ニ係ル傍系親ヲ以テ組成スルモノヲ云フ然レトモ此順序ニ就テハ法律ニ明文ナシ何トナレハ第七百五十三條ハ單一系ニ於テハ尊屬親又他系ニ於テハ傍系親ノ成立スル場合ヲ規定シテ此ニ及ハサレハナリ故ニ若シ全ク尊屬親ノアラサル場合ニ於テハ第七百三十三條ノ原則ヲ適用スルヲ要ス即尊屬親ニテ相續スヘキ遺物ノ一半ハ之レト同系ノ傍系親ニテ相續スルナリ

是ヲ以テ遺物ヲ分派スルニ當リ兩系ニ傍系親アルトキハ其各系最親ノ傍系親ニテ各其一半ヲ相續シ其同系中ニテ分頭ニ之レヲ分派ス可シ又若シ其一系ニミ傍系親アルトキハ其一系ノミニテ全部ノ遺物ヲ相續シ右ト同一ノ原則ニ從テ分派ヲ爲ス可シ此等ノ点ニ就テハ別ニ明文ナシト雖トモ道理上右ニ述ヘタル一般ノ規則ヲ比附援引シテ以テ分派ヲ爲スナリ

第四章 例外相續

例外相續トハ正當相續ノ反對ニシテ私生ノ血屬又ハ配偶者又ハ政府ノ相續スル場合ヲ云フナリ故ニ本章ノ第一款ニ於テハ私生子ニ於テ其父又ハ母ノ財産ニ關シ有スル權利ヲ規定シ又其第二款ニ於テハ遺存シタル配偶者及政府ノ權利ヲ規定ス吾輩ハ此政府ノ次ニ教育院ヲ附加スルコトヲ欲ス何トナレハ該院ハ同ク相續ヲ爲スノ權ヲ有スル

第一欸 父母ノ財産ニ付キ私生子ノ權利及子孫ヲ遺留セスシテ死去シタル私生子ノ相續權

茲ニ相續ヲ爲スヲ得ヘキ私生ノ血屬親ハ則私生ノ子其兄弟姉妹及其父母ナリ此場合ニ於テ殊ニ注意スヘキハ其私生ノ血屬タルコトハ隨意ニ之ヲ認知セラレタルコトヲ要スルニアリ何トナレハ私生ノ血屬親ヲ搜索スルハ法律ノ禁スル所ナレハナリ

斯クテ私生子ガ嫡出ノ相續人ト共ニ相續ヲ爲ストキハ其私生子若シ嫡出ノ子タルニ於テハ相續スルヲ得ヘキ部分ノ三分一ニアリトス又死者尊屬親若クハ其兄弟姉妹ト共ニ相續ヲ爲ストキ私生子ノ得ヘキ部分ハ遺物ノ半分ヲ獲得スルヲ得ヘシ又死者ノ兄弟姉妹ヨリ他ノ傍

系親ト共ニ相續ヲ爲ストキハ遺物ノ四分ノ三ヲ獲得スルヲ得ヘキナリ然レトモ其嫡出ノ血屬親更ニ之レナキトキハ死者ノ配偶者遺存スルニ之ヲ除去シテ遺物ノ全部ヲ相續スルヲ得ヘキナリ死者自ラ私生子ニシテ其私生子及其父母ノ遺存スルトキ此私生子ハ死者ノ遺物全部ヲ相續スルヲ得ヘシ若シ又其父母ト私生ノ兄弟姉妹ノ遺存スルトキ其父母ハ此兄弟姉妹ヲ除去シテ相續スルヲ得ヘシ此場合ニ於テ之ヲ嫡出ノ父母ノ相續ニ比スレハ私生ノ父母ハ却テ好位置ニアル者ノ如シ何トナレハ嫡出ノ父母ハ既ニ陳述シタルカ如ク兄弟姉妹ト共ニ相續ヲ爲シ死者ノ遺物全部ヲ相續スル能ハサルカ故ナリ是ヲ以テ之ヲ見レハ私生ノ兄弟姉妹ハ第三級ニアリテ稍ク相續ヲ爲スモノナリ故ニ其相續ヲ爲スハ死者ノ子及父母共ニ之レナキ時ニ限ルナリ

右ニ陳述シクルカ如ク法律上私生子ノ相續權ヲ制限シテ嫡生子ノ相續權ニ劣ルモノトナシタルハ夫ノ相續法ノ原則タル親屬ノ愛情上ヨリ論スルトキハ誠ニ其理由ニ乏シト雖モ法律ノ意ハ正當ノ婚姻ニ由テ生レタル子ヲ尊敬シテ之ヲ貴キモノトシ社會ノ人ヲシテ成ルベク夫ノ貴重ナル婚姻ヲ獎勵スル爲メ婚姻セスシテ生レタル子ヲ劣等ノ地位ニ立タシムルナリ斯クテ述フルカ如ク情愛ニ於テ嫡出ノ血屬親モ私生ノ血屬モ別異アルナシトスルトキハ敢テ其相續者ヲ死者ノ私生子及父母兄弟姉妹ニ止メス之ヲ他ノ尊屬及傍系親ニ擴充スルヲ以テ至當ト信ス然ルニ法律ノ此ニ及ハサルハ惜ム可キコトニシテ之ヲ自然法ニ適フモノト云フヲ得サルナリ

爰ニ私生子ノ如クニシテ法律上私生子ト認メサルモノアリ即姦通又ハ亂倫ノ子はレナリ是等ノ子ハ何レノ場合ヲ問ハス相續ヲ爲スヲ得

サルナリ是レ蓋シ社會ノ風儀ヲ壞乱シタルヲ以テ自由ノ人ヨリ生レタル者ノ如ク待遇ヲ爲サス之ヲ酷待シ其醜態ヲ掩蔽スルニアルナリ然レトモ法律ハ之レニ養料ヲ贈ルヲ許スナリ 第七百六十二條第七百六十三條第七百六十四條ヲ參觀

第二款 遺存ノ配偶者及政府ノ權利

○遺存ノ配偶者

遺存ノ配偶者ノ相續ヲ爲スハ凡テ相續スヘキ人ノ之レナキ時ニ限ルナリ此場合ハ則チ第七百六十七條ニ之ヲ定ムル所ナリ(死者若シ相續ヲ爲スヘキ等親ノ親屬及私生子ヲ遺留セサル時其相續ノ財產ハ離婚セサル遺存ノ配偶者ニ屬ス)故ニ死者ニ相續スヘキ其親ノ親屬ナキ時其死去ノ前ニ於テ離婚セサル配偶者相續ヲ爲スヲ得ヘキナリ

是ヲ以テ之ヲ見レハ配偶者ノ相續ヲ爲スノ順序ハ甚ダ不利益ノ地位

ニアリ故ニ法律學者往々此法律ヲ駁撃シ死者ノ子孫ニテ相續ヲ爲ス
トキハ止ムヲ得スト雖_レ其他ノ親屬ニテ相續ヲ爲ストキハ少クモ死
者ノ配偶者ニ與フルニ其遺物ノ用_レ收_レ權_レ人_レ額所得權_レヲ以テセハ正當ナ
リト論スル者アリ吾輩モ亦其妥當ナルヲ知ルナリ故ニ佛蘭西ニ於テ
ハ近時其意ヲ以テ此ノ改正按ノ起稿ニ着手セリト聞ク

○政府

政府ノ相續ヲ爲スハ第七百六十八條ニ記スルカ如ク死者ニ嫡生若ク
ハ私生ノ親屬又ハ遺存ノ配偶者ナキ時ニアリ然ルニ或ル論者ハ遺物
ニ就キ政府ノ有スル權利ハ相續ノ名義ニテ獲得スルニアラス政府ノ
支配權ヲ施行スルナリト主張セリ然レ_レ此立法者ハ第七百六十八條
ニ於テ政府ハ相續ノ名義ヲ以テ死者ノ遺物ヲ獲得スルモノトセリ其
理由トスル所ハ以爲ラク死者ニ如何ナル相續者モナキ時ハ國民ノ全

部ヲ代表スル社會ノ團體即政府ニ屬スルモノト爲スニアルナリ然レ
_レ之ヲ以テ主ナキ財產及先占者ニ屬スルモノト思考ス可カラス何ト
ナレハ若シ斯ノ如ク決定スル時ハ其所有權ノ獲得ニ關シ暴行ヲ以テ
爭ヒ爲メニ社會ノ秩序ヲ害スル危險ヲ生スルカ故ナリ



其政府ニ屬スル相續ハ之ヲ稱シテ喪主_ニ相續ト謂フ然レ_レ之ヲ_レ欲位相

續ト混同スヘカラス其喪主相續トハ全ク相續スヘキ親族其他配偶者

ナキヲ以テ政府ノ相續スルモノニシテ其欲位相續トハ相續者ナル者
ハ出會セスト雖_レ其相續者アリト推測スル場合ヲ謂フナリ故ニ此場
合ニ於テハ其相續人ノ出會ヲ待テ而シテ其出會セサル間遺物ノ散乱
スルヲ豫防スル爲メ始審裁判所ハ其相續持主ノ財產ヲ支配セシムル
小_レコロノ管財人ヲ命スルナリ第八百十一條
以下參觀

第五章 相續ノ領承及其辭謝

相續篇

吾輩ノ曾テ説明シタル如ク正當ノ相續人ハ収握權ヲ有スルニ由リ假令相續ノ發開ヲ知ラスト雖モ相續者ハ常ニ相續者ナリ然レモ其相續者ト爲ルヲ欲セサル者ヲシテ法律上強テ相續者トスルニアラス故ニ其収握權ヲ有スルハ他日相續ヲ領承シテ以テ法律上自ラ歸屬スル相續權ヲ確認シ或ハ之ヲ辭謝シ或ハ之ヲ折衷シ目錄相續ノ方法ニ從ヒ領承ヲ爲スノ内ニ存スルナリ本章ハ則其収握權ニ由テ生スル領承及辭謝ヲ規定シタルモノナリ

第一款 領承

第七百七十八條ニ記スルカ如ク領承ニハ明諾又ハ默諾ノ二種アリ明諾トハ公正又ハ私ノ證書中ニ相續人ノ名稱ヲ以テ領承スル時ヲ云ヒ默諾トハ相續人必ス領承ヲ爲スノ意アルコトヲ推知ス可キ所爲ヲ爲セシ時ヲ云フ故ニ遺物中ノ財産ヲ他人ニ讓與シ又ハ之ヲ毀壞シ又ハ

異常ノ伐木ヲ爲シ又ハ義務ヲ釋放スルカ如キ財産ヲ隨意ニ處置スル時ハ默諾ノ領承ト云フ可クシテ支配上ノ所爲即財産ノ封印若シハ開封ヲ爲ス事或ハ時効ヲ切斷スル爲メ裁判所ニ訴ヲ爲ス事或ハ期限ノ經過スルニ垂ントスル書入質ノ記入ヲ改ムル事或ハ人ノ住居セサル家屋ヲ賃貸トスルカ如キハ默諾ノ領承ト看做スヘキモノニアラサルナリ

茲ニ辭謝ノ如クシテ却テ領承ト看做ス場合二個アリ

第一 相續人中ノ一人ニ於テ其共同相續人ノ一人又ハ數人ノ爲メ辭謝ヲ爲ス時

第二 共同相續人全員ノ爲メニ辭謝ヲ爲セシト雖モ辭謝ノ報償ヲ收受セシ時

其第一ノ場合ニ於テハ共同相續人ノ一人ニ惠與シ他ノ共同相續人ヲ

除去セント欲スルニアリ故ニ之ヲ領承ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ
眞ノ辭謝ト稱スルモノハ彼此ノ別ナク共同相續人ノ全員ニ於テ其利
益ヲ受クルカ故ナリ

又其第二ノ場合ニ於テハ辭謝ノ爲メニ利益ヲ得タル所ニ就テ考フレ
ハ其實相續權ヲ賣却シタルモノニシテ之ヲ辭謝シタルニアラス故ニ
尙ホ相續者タルヲ免レサルナリ

若シ暴行、詐欺錯誤ニ由テ其領承ヲ爲ストキハ法律ハ固ヨリ之ヲ取消
スナ許スナリ故ニ第七百八十三條ニ言ヘルカ如ク遺物ノ半額以上ヲ
遺囑ノ贈遺ト爲シタル證書アルヲ知ラスシテ領承ヲ爲シタル時ハ之
ヲ取消スヲ得可シ又吾輩カ契約篇ヲ講スルニ當リ陳述シタルカ如ク
死者ヲ錯誤シテ相續シタル場合ニ於ケルモ亦其領承ヲ取消スヲ得ヘ
キハ條理ニ於テ許ストコロナリ例ヘハ父又ハ母ノ相續ト信シテ領承

シタル時其伯叔父又ハ伯叔母ノ相續ニ於ケルカ如シ然レハ遺物ノ入
額ト出額トヲ錯誤シタル時ハ其相續ノ領承ヲ取消スヲ得サルナリ何
トナレハ目錄相續ノ方法ニ由テ領承ヲ爲ストキハ斯ノ如キ錯誤ヲ生
セスト雖モ其此ニ出テサルハ自己ノ不注意ナレハナリ

第二款 辭謝

相續ノ辭謝トハ相續人ニ於テ自己ニ歸屬シタル収握權ヲ確認セスシ
テ相續ニ關セスト明言スル所ノ所爲ヲ云フナリ故ニ其辭謝ヲ爲セシ
者ハ曾テ相續者ニアラサルモノト看做シ又其地位ニ代リタル者ハ始
メヨリ其辭謝シタル權利ヲ有セシモノト看做スナリ而シテ其辭謝シ
タル者ノ得分ハ其共同相續人又ハ次ノ等親ニ屬スルナリ此時此權利
ヲ稱シテ増加相續權ト云フ

第七百八十四條ニ就テ觀ルニ辭謝ハ之ニ關係アル者ヲシテ普ネク知

得セシムル爲メ明カニ之ヲ爲スヲ要スルニアリ例ヘハ死者ノ權利者ニ於テ無用ノ訴ヲ爲サ、ル爲メ某相續人ハ其相續權ヲ辭謝シタルヤ否ヲ知ルコト緊要ナリトス又共同相續人ハ自己ノ相續スヘキ部分及義務ノ増加シタルヤ否ヲ知ルコト於テ大ニ利益アリトス是ヲ以テ相續ノ辭謝ハ相續ノ開始シタル地ノ裁判所ノ書記局ニ於テ此事ニ就キ備ヘタル別段ノ簿冊ニ記載スルヲ要ス

一タヒ相續ヲ辭謝スト雖モ其領承ノ時ニ於ケルカ如ク之ヲ以テ確定シタルモノト爲スヘカラス故ニ辭謝ノ後他ノ共同相續人之ヲ領承セサル以上ハ其辭謝ヲ取消シ更ニ之ヲ領承スルヲ得可シ

第三款 目錄相續、其効及目錄相續人ノ義務

○目錄相續

遺物相續ノ開始スルニ當リ其相續人死者ノ出額ハ多クシテ入額ハ僅

少ナルコトヲ明知スル時ハ如何ナル手續ヲモ施サスシテ直ニ之ヲ辭謝シ又其入額ハ多クシテ出額ノ少ナキコトヲ明知スル時ハ直ニ之ヲ領承スルコト疑ヲ容レサルナリ然レモ若シ其入額出額ノ多寡ヲ明知スル能ハサルトキハ此ニ於テ其目錄相續ノ方法ニ依リ死者ノ財産ヲ悉ク目錄ニ記載シ調査ヲ爲シタル後ニ相續ヲ爲スナリ故ニ此目錄相續ハ領承ト辭謝トノ間ニ成立ツモノニシテ實ニ其何レニ就テ考フルモ此相續法ハ障礙ナク却テ大ニ利益アルモノニシテ自然法ニ適スルモノト云フ可シ何トナレハ死者ノ權利者ニ害ヲ及ホサスシテ相續人ノ資産ヲ保護スルカ故ナリ

○目錄相續ノ効

目錄相續人ハ通常ノ場合ニ於テ相續ヲ領承シタル如ク死者ノ財産全部ノ分配ヲ受クヘシト雖モ死者ノ負債ヲ辨償スルニ至リテハ其取得

シタル財産ノ價ニ至ル迄ノ外相續ノ辨濟ヲ爲スニ及ハス加之債主及遺囑ノ受贈者ニ總テノ遺物ヲ拋棄シテ負債ノ辨濟ヲ免ルニ得其他目錄相續人ハ遺物ト自己ノ財産トヲ混同セス且ツ遺物ニ對シテ自己ノ貸金ノ辨濟ヲ要求スルノ權利ヲ保有スルヲ得ヘキナリ然レモ右陳述シタル目錄相續人ハ相續ヲ爲シタル部分ノ外負債ヲ償ハストノ原則ニ例外アリ故ニ左ノ場合ニ於テハ自己ノ財産ヲ以テ死者ノ負債ヲ辨濟ス可シ

第一 目錄相續人ニ於テ其管理上ノ計算ヲ示スヲ遲滯シタル時

第二 目錄相續人ノ決算濟ノ後其殘額アリテ之レカ辨濟ヲ遲滯シ

タル時

第三 目錄相續人ノ負擔スル管理ニ關シ重大ノ過失アル時

○目錄相續人ノ義務

目錄相續人主要ノ義務ハ遺物中ニアル債權ヲ執行シテ之ヲ得且ツ其義務ヲ辨濟スルコアリ故ニ此所爲ヲ行フニ就テハ遺物中ニアル動産不動産ヲ競賣シ又ハ債主及遺囑ノ受贈者ヲ招集シ法律ニ定メタル順序ニ從テ其辨濟ヲ爲ス可シ故ニ此辨濟ヲ爲スニハ二個ノ場合ニ區別シ若シ故障ヲ爲ス債主アル時ハ裁判官ノ定メタル順序方法ニ循フニ非レハ辨濟ヲ爲スヲ得ス若シ此規則ニ循ハスシテ辨濟ヲ爲スニハ損害ヲ受ケタル債主アルトキハ再ヒ之ニ其部分ヲ辨濟スルヲ要ス之ニ反シ若シ故障ヲ爲ス債主ナキ時ハ債主及遺囑受贈者ノ出會順序ニ從ヒ之ニ辨濟ヲ爲ス可シ此場合ニ於テ債主ハ假令目錄相續人ノ結算濟及殘額ヲ辨濟シタル後ニ出會ス下雖モ其受贈者ニ對シ辨濟ヲ要求スルヲ得可シ何トナシモ債主ハ遺囑ノ受贈者ノ爲メニ其權利ヲ害セラル、理由ナキカ故ナリ

第四款 缺位相續

缺位相續トハ吾輩ノ既ニ零陳スルカ如ク全ク相續人ナキニ非スシテ之ヲ要求スル者ノ出會セサル時ヲ云フナリ此ノ相續ノ缺位ト看做スニハ左ニ記スル三個ノ條件ヲ必要トス

第一 遺物ノ目錄ヲ作り及領承スヘキヤ否ヲ熟慮スヘキ猶豫期限ヲ經過スル事

第二 政府ニ至ルマテ總テ遺物相續ヲ要求スヘキ者ノ出會セサル事

第三 分明ノ相續人ナキカ又ハ分明ノ相續人相續ヲ辭謝スル事
右ノ場合ニ於テ遺物ノ債主及遺囑ノ受贈者等ノ如キ關係人ノ要求又ハ檢事ノ申立ニ因リ裁判所ニ於テ管財人ヲ任命シ之レヲシテ法律ニ定メタル法式訴訟法第九百八十七條參觀ニ從ヒ動産及不動産ヲ賣却セシメ又ハ遺

物ノ義務者ヲ訴ヘ其辨濟ニ由テ得タル資産ヲ付托役所ニ寄托セシメ又ハ裁判所ノ命令ニ由テ義務ヲ償却セシム可シ以上述フル所ノモノハ皆遺物相續人ノ出會セサル間死者ノ財産ヲ一時保管スルノ意ニア
ルナリ

第六章 分派及ヒ返還

第一款 分派ノ訴訟及ヒ其法式

分派トハ遺物上ニ共同相續人ノ有スル權利ヲ定限シ以後其一部ハ特別ニ其各自ニ屬セシメ共同相續人ノ結合ヲ解放スル所爲ヲ云フ然ル時相續者間ノ協議ニテ分派ヲ爲ス時ハ之ヲ以テ眞ノ契約ナリトス然レハ其相續人悉ク能力者ニアラサル歟又ハ相續者間分派ニ就キ協議ノ調ハサル歟ノ時ハ裁判所ニ於テ之ヲ爲ス可シ此場合ニ於テ分派ハ契約ヨリ成ルニアラサルナリ

此分派ノ原則ハ何人ヲ問ハス長ク結合体ニ存スルコトニ脅迫セラレサルニアリ此結合体ト稱スルモノハ所謂共同所有者ニシテ其權利ハ總テノ物件ニ混合シテ以テ存立シ其各所有者ト其物件ノ一分子ニ付テ各々其權利ヲ有スルナリ此場合ニ於テ各所有者ハ其共有物ヲ害スヘカラス然レモ其共有タルコトノミニ因リ常ニ一ノ危害ヲ生スヘシ何トナレハ共有者中ニテ此物件ヲ濫用シ或ハ所有權ノ執行ヲ妨碍スルコトアルカ故ナリ加之其使用ノ方法又ハ之ヲ賣却シ又ハ之ヲ賃貸トナスニ付テ共有者ノ間ニ協議ノ整ハサルコトアリ之カ爲メ共有者ノ間ニ訴訟ヲ生シ遂ニ私益ハ元ヨリ公益ヲ害スルニ至ルヘシ是即チ法律ニ於テ共有者ノ各自ニ遺物ノ分派ヲ請求スルコトヲ許ス所以ナリ

時トシテハ眞ノ分派ヲ爲サズシテ假ノ分派ヲ爲スニ止ムルコトアリ其假ノ分派トハ即チ相續人各自ノ股分^{アグメイ}ヲ作り其各自ニ別個ニ之ヲ

使用セシムト雖モ隨意ニ之ヲ讓渡スヲ許サ、ルニアリ此假ノ分派ヲ爲ス所以ハ將來ノ利益ヲ害セスシテ共同相續者間ニ生スル争ヲ避クルノ目的ニアリ若シ此所置ヲ爲サズシテ眞ノ分派ヲ爲スルハ其分派ノ規則ニ依リ止ムヲ得ス遺物ヲ賣却スルヲ以テ之カ爲メ共同相續人ノ利益ヲ害スルコトアリ何トナレハ物件ヲ賣却スルニハ至當ノ機會アルニ拘ハラズ其損益ヲ顧ミス賣却ヲ爲サ、ルヲ得サルコトアルカ故ナリ

前ニ陳述シタル豫防法ノ外尙ホ相續者間ニ於テ或ル定マリタル時間分派ヲ停止スルノ約條ヲ爲スコトヲ許可セリ法律上其之ヲ許可スル所以ハ若シ相續者ニ於テ此豫防ヲ爲サ、ルニ於テハ或ル相續者ノ僻慾ニ因テ突然分派ヲ請求シ爲メニ他ノ相續者ハ損害ヲ受クルコトアルカ故ナリ是ヲ以テ共同相續者ハ五年間結合体ニ存立スルヲ契約スルヲ

得可シ此五年ノ期限ハ其期限ニ至リ更ニ之ヲ改ムルヲ得ヘシ然レモ之ヲ五年以上ニ及ホスヘカラス此五年ノ期限ハ全ク立法官ノ專横ニ出テタルモノニシテ若シ立法上他ニ故障ナシト認ムルニ於テハ此期限ヲ七年又ハ十年ト定ムルヲ得ヘキナリ

今爰ニ説明シタル五年間結合体ニ存立スルノ契約ハ相續者間ニ於テ其共同相續者自ラ爲ス場合ニアリト雖モ若シ死者ニ於テ之ヲ定メ置キタル時ハ其遺言ニ從ハサルヲ得サルヤ如何此問題ニ付テハ學者間大ニ議論アル處ナリト雖モ吾輩ハ斷シテ此脅迫結合ヲ遵奉スルニ及ハスト信ス如何トナレハ此脅迫結合ハ相續者ノ一致ヨリ出テタル結合ニ比スレハ甚タ不利益ナルノミナラス亦何人ヲ問ハス結合体ニ存立スルニ及ハストノ原則ニ背クカ故ナリ實ニ此原則及法律ニ於テ假ノ分派ヲ許シ且五年間分派ヲ停止スルヲ許シタルハ自然法ニ適

スルモノト云フ可シ何トナレハ是等ノ規則ハ皆相續者ノ利益ト公益トヲ目的トスルカ故ナリ此ニ於テ考フルニ死者ノ定メタル五年間ノ脅迫結合ハ其正當ナラサルヲ知ル可シ何トナレハ相續者ノ欲セサルニ於テ之ヲ脅迫シテ以テ其利益ヲ害シ隨テ公益ヲ害スルカ故ナリ前ニ陳述シタル所ハ契約上ノ分派ニアリ之レヨリハ裁判上ノ分派ノ方式ヲ説明スヘシト雖モ今爰ニ之ヲ畧シテ述ヘス其規則ハ第八百十七條以下ニ就テ之ヲ知ルヘシ實ニ此裁判上ノ分派ノ手續ハ錯雜シタルモノナルノミナラス之ヲ爲スニハ夥多ノ費用ヲ要シ且ツ相續者ノ爲メニ非常ノ損害ヲ被ムルコトアルヘシ

第二款 返還

ラツギル

第八百四十三條ニ依レハ總テ相續人ハ其相續ヲ爲スニ當リ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺トシテ收受シタル諸物件ヲ返還スルノ義務アリ此

規則ハ吾輩ノ既ニ陳述セルカ如ク遺物分派ノ時同一ノ身位ヲ有スル者即子兄弟姉妹甥姪及從兄弟姉妹等ノ間ニ成立ツ總テノ權利及其部分ノ平等ヲ保ツノ主義ヨリ出タルモノナリ實ニ此規則ハ自然法ニ適スルモノトス何トナレハ其平等主義ハ則公平ニ出レハナリ故ニ相續者間ニ死者ヨリ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ收受シタルモノアル時ハ其生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ受ケタルモノヲ分派スヘキ合部中ニ返還スルヲ要ス斯ノ如ク遺物ノ分派ニ先ンシテ爲ス所ノ所爲ヲ返還ト稱スルナリ然ルニ其物件ハ曾テ死者ヨリ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ト爲セシアル無キカ如ク思考スルナリ若シ返還ヲシテ斯ノ如キモノヲラシメハ其贈遺ヲ受ケタル相續人ハ唯タ受贈者ノ名義ノミニシテ更ニ其利益アルヲ見サルナリ敢テ然ラス爰ニ生存中ノ贈遺ニ就テハ三益又遺囑ノ贈遺ニ就テハ二益アリ

此生存中ノ贈遺ニ關スル三益トハ則チ左ノ如シ

- 第一 生存中ノ贈遺ヲ受ケタル相續人ハ其之ヲ收受シタル時ヨリ死者ノ死去ノ日ニ至ルマテ其財産ノ收益ヲ爲シタル事
- 第二 此相續人ハ遺物中ニ曾テ生存中ノ贈遺トセラレタル物件ト同一物件ノ他ノ相續人ニ歸屬スルヲ得ヘキトキハ他ノ相續人ヲ差置キ其贈遺トセラレタル物件ヲ自己ノ股分中ニ保有スルヲ要求スルヲ得ヘシ

第三 遺物相續ヲ辭謝シ生存中ノ贈遺ヲ自己ニ保有スル事
 又遺囑ノ贈遺ニ關スル二益トハ則前ニ述ル三箇ノ利益中第一ヲ除クノ外第二第三ノ利益ヲ指スナリ蓋シ其第一ノ利益ノ此ニ適用スル能ハサルハ説明ヲ俟タスシテ自ラ明カナリ何トナレハ何人ヲ問ハス未ダ占有セサル物ニ就テ収益ヲ爲ス能ハサレハナリ

既ニ説明ヲ爲シタルカ如ク返還ハ同等主義ニ基クト雖モ實際ニ於テハ此返還ヲ要セサルコトアリ故ニ生存中ノ贈遺者又ハ遺囑ノ贈遺者ニ於テ其返還ノ義務ヲ免除スルヲ得ヘシ此場合ニ於テハ死者ニ於テ其意ヲ表明シタルコトヲ要ス如何トナレハ若シ之ヲ表明セサルトキハ死者ノ意思ヲ解釋スルニ就キ訴訟ヲ生スルカ故ナリ是ニ於テ此受贈者ハ特別ニ之ヲ分派外ニテ己レニ保存スルヲ得ヘシ然レモ其相續人死者ノ隨意ニ使用スルヲ得ヘキ財産ノ定分ヨリ過分ノ贈遺ヲ受ケタルキハ之レヲ其定分ニ減少セラルコトアルヘシ第九百十三條ヲ參觀スヘシ返還ハ實物ヲ以テ爲シ又ハ扣除法ヲ以テ爲ス可シ實物ヲ以テ返還ヲ爲ストハ受贈者ニ於テ遺物ノ合部中ニ物件ヲ返還シ各自ノ股分ヲ定ムルヲ云フ又扣除法ヲ以テ返還ヲ爲ストハ受贈者ニ於テ既ニ收受シタル物件ノ價格ヲ其股分中ニテ扣除セシムルヲ云フ其實物ヲ以テ返

還ヲ爲スハ曾テ不動産ノ贈遺ヲ受ケ相續開始ノ時猶ホ之ヲ其相續者ニ於テ貯存スル場合ニ於テ生スルナリ如何トナレハ其相續者ニ於テ既ニ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ自己ノ過失ニ依テ之ヲ滅失シタルキハ實物ヲ返還スル能ハサルカ故ナリ此場合ニ於テハ扣除法ヲ適用シ相續開始ノ日ニ付テ其不動産ノ時價ヲ考察シ此價ヲ返還スルヲ要ス之ニ反シ動産ヲ贈遺トシテ收受シタルキ其返還ハ常ニ扣除法ヲ以テ爲スヘシ此場合ニ於テハ贈遺ノ日ニ就テ動産ノ時價ヲ考察シ其價額ヲ返還スルヲ要ス

吾輩ノ既ニ説明シタル所ニ就テ見レハ實物ヲ以テ返還ヲ爲スハ受贈者ニ於テ其贈遺セラレタル不動産ヲ他人ニ讓與セサル時ニ限ルナリ是ヲ以テ考フルニ其所有權ヲ獲得シタル第三者ノ權利ヲ漫リニ保護シ共同相續者ノ權利ヲ害スルカ如シ何トナレハ受贈者ニ於テ其既ニ

贈遺トセラレタル不動産ヲ他人ニ讓與スル時ハ之ヲ返還セシムル能ハサルノ規則アレハ第八百五十九條第百之ヲ讓受ケタル第三者ニ對シ物上權ヲ以テ其差押ヲ爲ス能ハサルカ故ナリ故ニ此法律ハ自然法ニ適シタルモノト見做ス能ハス蓋シ何人ヲ問ハス自己ノ現在所有スル權利ニアラサレハ他人ニ讓渡ス能ハサルハ一般ノ原則ナリ然レハ立法者ノ意ハ財產運用上ノ利益ニ付テ此例外ヲ定メタル者ナリ其利益トハ若シ受贈者ヨリ他人ニ讓渡ス所ノ權利ハ他日其受贈者ノ相續ヲ爲ス時ニ至リ此權利ハ解除セラレ、モノトスルキハ其權利ヲ讓受クルモノ恐クハ之レアルナシ然ルトキハ社會ノ不動産ノ運用ヲ妨クルヲ以テ一般ノ利益ニ反スルヲ以テ此例外ヲ設クルノ可ナルコトヲ信シタルナリ然レハ不動産ノ返還ヲ爲スヘキ相續者ニ於テ既ニ此不動産ニ付用収權及地役ヲ設定シ或ハ之ヲ書入質トナシタル時其返

還ヲ爲スニ當リ是等ノ權利ハ總テ消滅シ之ヲ完全ノ不動産トシテ遺物ノ部合中ニ併合スヘシ

第三款 負債ノ辨濟

本款ニ記スル負債ノ字義ハ之ヲ其固有ノ意ニ解スレハ死者ノ爲シタル契約ヨリ生シタル義務ニシテ其相續人ニ移轉スル負債ヲ言フト雖デットハ本款ニ於テハ最モ博キ意味ニ解釋シ今述ヘタル義務ハ素ヨリ其死後ニ生シタル負債ヲ包含スルモノトス例ヘハ埋葬ノ費用及封印ヲ爲シ又ハ目錄ヲ記スルノ費用ノ如シ此場合ニ於テハ常ニ之ヲ負擔ト稱スルナリシタルシニ

蓋シ人ノ死後ニ多少ノ負債及負擔アルハ通例ニシテ他人ニ對シ幾分ノ義務ナキモノ恐クハ之レナキナリ加之無資力ト言フニハアラスト雖ハ著大ノ負債ヲ有スル者猶ホ之アリ此ノ如キハ殊ニ商人、大工業家

及豪農ニ之アリトス故ニ是等ノ人ニ於テ死去スル時其相續ヲ領承スル相續人ハ之ニ由テ全ク死者ノ負債ヲ辨濟スルヲ要スルナリ

○辨濟ノ手續及相續者各自ノ負擔

死者ノ負債皆辨濟ノ期限ニ至リタルトキハ遺物ノ財産中ヨリ其分派前ニ先ツ之ヲ辨濟シ次ニ純粹ノ入額ト稱スル殘額ヲ相續人ニ分派ス可シ然レモ負債ニシテ期限ニ至ラサル時ハ之ヲ拂フニ於テ其損失ヲ生シ其他債主ノ知レサル時又ハ之ヲ知ルヲ得タルモ出會セサルトキハ前ニ反シテ先ツ遺物分派ヲ爲シ次ニ負債ノ辨濟ヲ爲ス可キナリ是ニ於テ負債ヲ辨濟スル手續ノ大畧ヲ知ル可シ

其辨濟ヲ爲スノ原則ハ吾輩ノ屢々陳述シタルカ如ク同等主義ニ基キ各相續人ハ其取得シタル財産ノ割合ニ從ヒ分擔シテ負債ノ辨濟ヲ爲スヲ要スルニアリ是ヲ以テ見レハ相續人ハ連帶シテ負債ヲ擔當スル

ニ及ハサルコト明カナリ然レモ嫡出ノ相續人ト私生子ト同時ニ相續ヲ爲ス時遺物ノ債主ハ其私生子ヲ摺テ先ツ嫡出ノ相續人ノ部分ニ就キ辨濟ヲ要求スルノ權利ヲ有ス此場合ニ於テ其辨濟ヲ爲シタル相續人ハ私生子ニ對シ償還ヲ得可キハ論ヲ俟タサルナリ是ニ就テ考フレハ其狀恰モ連帶ニ於ケルカ如キナリ又之ト同ク包括名義ノ遺囑ノ受贈者即チ財産ノ一半又ハ三分一ヲ受ケタル遺囑ノ受贈者アル時債主ハ其受贈者ヲ訴ヘスシテ常ニ嫡出ノ相續人ヲ訴フルヲ得ヘキナリ然レモ其嫡出ノ相續人ヨリ其受贈者ニ對シ還償ヲ爲サシムルハ又論ヲ俟タサルナリ今陳述シタル所ハ之ヲ約言スレハ則債主ハ法律上死者ヲ代理スル者即嫡出ノ相續人ノミヲ訴フルノ權利ヲ有スト言フニア

○資産ヲ區分スル事

遺物相續開始ノ時簡單ニ普通ノ相續ヲ爲ストキハ死者ノ財産及義務ハ相續人ノ財産及義務ト混同ス蓋シ此混同ハ相續者及其代權人ノ爲メニ利益トナツテ死者ノ債主ノ爲メニハ損害トナルコアリ例ヘハ死者ハ資産家ニシテ其相續者ハ家産ヨリモ多ク負債ヲ有スル場合ノ如シ此場合ニ於テ死者ノ債主ハ死者ノ財産及負債ト相續人ノ財産及義務トナ区分スルコヲ請求スルコヲ得ヘシ然ルキハ死者ノ生存セシ如キ景狀ニ存セシメ死者ノ債主ハ相續人ノ債主ヲ除去シ其遺留財産ニ付テ辨濟ヲ受クルヲ得ヘキナリ

此財産ノ区分ヲ請求スルノ權利ハ死者ノ債主ニノミ屬スル者ニシテ相續人ノ債主ハ遺物ノ債主ニ對シ資財ノ区分ヲ要求スルヲ得ス斯ノ如ク相續人ノ財主ト死者ノ債主トノ間ニ權利ノ異ナル理由ハ即チ左ノ如シ

凡ソ義務アル者ト雖モ新タニ義務ヲ契約スルヲ得ヘキハ通常ノ規則ナリ若シ債主ニ於テ動産質、不動産質又ハ書入質ノ權ヲ得テ自己ノ權利ヲ擔保セシメサルハ甘ンシテ義務者ノ無資力ニ至ルヘキ危険ヲ冒シタルモノナリスニ於テ考フルニ義務者ナル相續者ニ於テ其相續ヲ領承シタルハ即チ義務者ニ於テ新義務ヲ契約シタルニ異ナラス故ニ其債主ハ義務者ニ於テ他ノ義務ヲ契約シタル場合ノ如ク之ヲ拒ムヲ得サルナリ是ヲ以テ其債主之レカ爲メ如何ナル損害ヲ受クルモ之ニ對シ苦情ヲ述フルノ權利ナシトス然レモ遺物ノ債主ニ就テハ之ト同視スヘカラサル者ニシテ此債主ハ唯死者ノミヲ信用シタルモノナリ故ニ自己ト契約ヲ爲サ、ル相續人ヲ以テ自己ノ義務者ト強迫セラルヘノ理由ナシトス

第四款 分派ノ効及股分ノ擔保

吾輩ノ既ニ講述セルカ如ク結合体ニアル各所有者ハ總テ其物件ノ全部ニ就キ互ニ權利ヲ有スル原則ニ從ヘハ其各自ノ間ニ股分ヲ配當スルトキハ自己ノ權利ヲ他ノ共有者ニ讓渡スト同時ニ又他ノ權利ヲ獲得スルヲ明カナリ故ニ共有物ノ分派ハ交換ノ契約ナリトス然レモ佛蘭西ノ法律ニ於テハ之ヲ交換ト爲サスシテ各相續人ハ常ニ其分派セラレタル股分ニ就テハ既ニ其所有者ニシテ他人ノ股分ニ就テハ曾テ如何ナル權利ヲモ有セサルモノ、如ク見做スニアルナリ是レ全ク法律上ノ想像ニシテ分派ハ則チ所有權ノ公告ナリト云フニアリ若シ之ヲ交換トスルモハ所有權ノ移轉ト云フヘキモノナリ蓋シ分派ヲ以テ所有權ノ公告ナリト見做シタルノ目的ハ左ノ二点ニアリ

第一 死去ノ時ニ當リ既ニ相續稅ヲ納付シタルニ因リ分派ノ時ニ至リ再ヒ所有權ノ移轉稅ヲ拂ハシムルヲ避クルト

三十八

三十九

第二 若シ相續人中ノ一人ニ於テ分派前ニ遺物中ノ不動産ヲ書入質ト爲シタル時他ノ相續人ニ於テ之ヲ己レノ股分中ニ受ケタルモ其書入質ノ權利者ヨリ訴テ受ケ之ヲ取上ケラル、カ如キ危険ヲ避クルト

以上述ヘタルカ如キ目的ヲ以テ分派ハ所有權ノ公告ナリトノ規則ヲ定ムト雖モ吾輩之ヲ以テ完全ナリト信セサルナリ如何トナレハ其被害ヲ避クルニ就テハ從テ一害ヲ生スルカ故ナリ其理由ハ結合体ニアル所ノ遺物ハ之ヲ讓渡シ之ヲ書入質トスルヲ得サルハ素ヨリ猶ホ此財産ニ就キ第三者ニ對シ如何ナル契約ノ目的ト爲スヲ得サルニアリ實ニ斯ノ如キハ吾輩ノ屢々講述セルカ如ク社會ノ經濟上ニ於テ甚タ不利益ナルモノナリ故ニ今日ハ法律學者及裁判所ニ於テモ其非ナルヲ悟リ成ルヘク此想像上ヨリ成立ナタル規則ノ効力ヲ制限セント欲

スルニアルナリ

右ヨテ分派ノ第一ノ効ヲ概陳セリ是ヨリハ其第二ノ効ヲ説明セント
 ス其効ハ則チ各相續人ノ股分中ニ含蓄シタル物件ヲ第三者ヨリ収奪
 シタル時他ノ相續人ニ於テ互ニ之ヲ擔保スルノ義務ヲ云フ斯ノ如キ
 場合ノ生スルハ錯誤ニ由テ死者ノ財産ニアラサルモノヲ遺物ナリト
 信シ之ヲ分派シタル時ニアルナリ而シテ此相續人互相ノ擔保ノ義務
 ナ負ハシムルノ原則ハ若シ分派ヲ以テ舊法ノ如ク所有權ノ讓渡ト看
 做ストキハ其相互擔保ノ義務ハ則交換ノ規則ヲ適用スト雖昨今日ハ
 分派ヲ以テ所有權ノ公告ト爲スニ依リ其相互擔保ノ義務ハ相續者ハ
 皆同等ナリトノ原則ヲ適用シタルモノト理解セサルヲ得サルナリ故
 ニ相續人ノ一人ニ於テ其股分中遺物ニアラサルモノヲ受クルトキハ
 其部分ヲ他ノ相續人數人ニテ負擔シ各自平等ノ割合ニ從ヒ其一部ヲ

四十

辨償スルヲ要スルナリ

第五款 分派ノ取消

分派ヲ取消スノ原由ハ則詐詭暴行及各相續人ノ股分ニ四分一以上ノ
 損害アル場合トス其他常ニ取消ノ原由ト思考スル錯誤ニ就テハ總テ
 ノ相續者ニテ正當ニ分派セサル時ニアラサレハ分派ヲ取消スヲ許サ
 ス第八百八何トナレハ遺物上ニ錯誤ヲ生シ死者ニ屬シタル物件ヲ分
 派ノ財産中ヨリ遺漏シタル時ハ其分派追補ノ訴ヲ爲シ又第三者ニ屬
 シタル物件ヲ股分中ニ加入シタル時ハ収奪ノ原由ヲ以テ擔保ノ訴ヲ
 爲スニ止ルカ故ナリ

第二一卷 生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺

生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺ノ如キハ我カ國未タ其成文ナシト雖モ其實ニ至テハ習慣上大ニ行ハル、所ノモノニシテ又從テ其規則ナカル可カラス故ニ吾輩ハ必ス今ヨリ一二年ノ後ニハ恐ラシク其法律ノ制定ニ至ルヲ見ルナラン然ラハ則今日ニ於テ之ヲ茲ニ畧陳スルモ亦徒勞ニアラスト信スルナリ

第一章 總則

○生存中ノ贈遺ノ定義

今日ハ民法中無償名義ニテ財産ヲ處置スルノ方法唯二個アルノミ生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺是ナリ其生存中ノ贈遺ノ定義ハ載セテ第八百九十四條ニアリ曰ク(生存中ノ贈遺トハ贈遺者贈遺ヲ領承スル受贈者ノ爲メ即時ニ且ツ確定ニ贈遺物ヲ乘與スル所爲ヲ云フ)此定義中ニ

二

三

所爲ト記スルハ妥當ナラス蓋シ契約ト云フノ意ニアルナリ何トナレハ遺囑ノ贈遺ハ契約ニアラスシテ唯一ノ所爲ナリト雖モ生存中ノ贈遺ハ純粹ノ契約ナレハナリ

又本條中ニ即時ト記スルノ語ニ糊着スルモ生存中ノ贈遺ノ適法トナルニハ其目的物ヲ引渡シ受贈者之ヲ占有スルヲ要スルモノ、如シ然レモ決シテ其意ニ解釋ス可カラス蓋シ其即時トハ遺囑ノ贈遺ハ其贈遺者ノ生存セサル時ノ爲メニ爲スモノニシテ其贈遺ノ時直ニ其目的物ヲ乘與スルニアラス其死去スルニ至ルマテハ何時ニテモ其贈遺ヲ取消スヲ得ルト雖モ生存中ノ贈遺ハ然ラス贈遺ノ時直チニ其効ヲ生ス可シトノ意ニアルナリ故ニ其契約成立ノ後此執行ハ之ヲ贈遺者ノ死去ニ至ルマテ遅引スルヲ得可キナリ

又此生存中ノ贈遺ハ遺囑ノ贈遺ト異ニシテ一タヒ贈遺ヲ爲シタル以

上ハ一般ノ契約ノ原則ニ從ヒ法律ニ定メタル原由アルニアラサレハ之ヲ取消スヲ得サルナリ

○遺囑贈遺ノ定義

第八百九十五條ニ曰ク遺囑贈遺トハ遺囑者最早生存セサル時ノ爲メ其財産ノ全部若クハ一部ヲ處置スルトコロノ所爲ニシテ又之ヲ取消シ得ルモノヲ云フ本條ニ於テハ既ニ生存中ノ贈遺ノ定義ヲ爲スニ當リ陳述セシカ如ク遺囑贈遺ハ契約ニアラサルヲ以テ單ニ之ヲ所爲ト記載シ遺囑者ノ意思ノミニテ成立ツコトヲ指示シタルナリ故ニ一タヒ遺囑贈遺ヲ爲スト雖モ遺囑者一己ノ意ヲ以テ隨意ニ取消スヲ得ヘキナリ

○生存中ノ贈遺ト遺囑贈遺ノ類似及其差異

○類似

四

五

第一 生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺ハ共ニ無償名義ニテ動産、不動産、物權及人權即債權ヲ獲得スルノ方法ナリ

第二 生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺ハ共ニ豫定相續人ノ爲メニ保存スヘキ財産ヲ制限ニ循フヲ要ス本卷ノ第三章第一欸ヲ參觀ス可シ

○差異

第一 生存中ノ贈遺ハ契約ナリト雖モ遺囑贈遺ハ一己人ノ意思ニ依テ成立ツナリ

第二 生存中ノ贈遺ハ契約ノ時直ニ權利ヲ授與スト雖モ遺囑贈遺ハ遺囑者ノ死去シタル後ニアラサレハ權利ヲ授與セス

第三 生存中ノ贈遺ハ確定ナリト雖モ遺囑贈遺ハ取消スヲ得ヘキモノナリ

第四 生存中ノ贈遺ハ有式ノ契約公證人ノ契約書ヲ記スルカ如クニシテ若シ之ニ從

ハサルトキハ無効ナリト雖モ遺囑贈遺ハ私ノ手署ナクシテ爲ステ得可シ

第五生存中ノ贈遺ハ丁年前ニ爲ステ得スト雖モ遺囑贈遺ハ此年齢前ニ行フテ得可シ 佛蘭西ニ於テハ十六歳ニ至

○生存中ノ贈遺及遺囑贈遺ノ條件

人ノ爲シ能ハサル事及法律又ハ風俗ニ反スル事ヲ條件トシテ契約ヲ爲ストキハ其條件ハ素ヨリ渾テ其契約ヲ無効トスト雖モ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ニ至テハ其條件ハ之ヲ其證書中ニ記載セサルモノト看做シ其贈遺ハ有効ノモノトシ與ユヘキモノハ之ヲ與フヘシト定メタルナリ

此規則中生存中ノ贈遺ヲ以テ有効ト爲シタルニ就テハ學者間一大問題ニシテ其當不當ヲ論シテ止マサルナリ然レモ立法者ノ意ハ遺囑ノ

六

七

贈遺及生存中ノ贈遺共ニ其贈遺者ノ意ヲ推測シ贈遺ヲ爲スニ就テ定メタル條件ハ贈遺者主タル真意ニアラスシテ其贈遺ヲ爲スノ意ハ寔ニ其真意ナリトシ其不正ノ條件ハ贈遺者一己ノ意ニ出テタルヲ以テ之ヲ其証書ニ記セサルモノトシ其真意ナリト想像シタル所ノ贈遺ヲ實行セシムルナリ

今吾輩カ贈遺者一己ノ意ト陳述スルニ於テハ或ル人必ス言ハシ遺囑贈遺ニ就テハ尙ホ可ナリト雖モ生存中ノ贈遺ニ至テハ其決論甚タ不當ナリト何トナレハ生存中ノ贈遺ハ一ノ契約ナレハナリト此說誠ニ然リ然レモ此契約即チ生存中ノ贈遺ハ双方ノ意ヨリ成立ツト稱スルモノハ法律上ノ事ニシテ實際ニ於テハ生存中ノ贈遺ハ贈遺者一己ノ人所爲ナリ故ニ別段ニ條件ヲ定ムルモ其一己ノ意ニ出ルヤ明瞭ナリ蓋シ受贈者ハ若シ贈遺者ノ意ニ反スルトキハ其利益ヲ失ハシテ恐

レ其條件ヲ駁撃スルノ自由ヲ有セサルナリ是ヲ以テ之ヲ遺囑贈遺ニ
比スルモ敢テ不當ニアラサル可シ

第二章 生存中ノ贈遺及遺囑贈遺ニ因テ財産ヲ

處置シ又ハ收受スルノ能力

何人ヲ問ハス生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ニ因テ財産ヲ處置シ又ハ
收受スルノ能力ヲ有シ其無能力ナルハ例外ニシテ法律ニ之ヲ定ム故
ニ其能力者ノ如何ヲ研究セスシテ其無能力ノ如何ヲ探究スルヲ要ス
ルナリ

○財産ヲ處置スルノ無能力

今爰ニ其財産ヲ處置スルニ就テノ無能力者ヲ指示セントスルニ之ニ
種々ノ區別アリ其一ハ則生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺ニ由テ處置スル
ヲ得サルモノ他ノ一ハ則遺囑贈遺ヲ爲シ得ルモ生存中ノ贈遺ヲ爲シ

八

得サルモノ終リニ其他ノ一ハ則生存中ノ贈遺ヲ爲シ得ルモ遺囑贈遺
ヲ爲シ得サルモノ是ナリ

九

其生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺ヲ爲シ得サルモノ左ノ如シ

- 第一 精神ノ健全ナラサル者 白痴 癡癡 等ノ如シ
- 第二 滿十六歳ニ至ラサル幼者 婚姻ヲ爲シタルトキハ例外ナリトス
- 第三 禁治産者
- 第四 治産ノ禁ヲ受ケスシテ瘋癲病院ニ入レラレタル者

又生存中ノ贈遺ヲ爲スニ就テハ無能力者ニシテ遺囑ノ贈遺ヲ爲シ得
ヘキモノ左ノ如シ

- 第一 滿十六歳ニ至リタル者 第九百四條
- 第二 裁判所ヨリ補佐人ヲ與ヘラレタル丁年者 第四百九十九條及第五百十三條參觀
- 第三 婚姻ヲ爲シタル婦 第九百五條

贈遺及遺囑篇

終リニ遺囑ノ贈遺ヲ爲スニ就テハ無能力者ニシテ生存中ノ贈遺ヲ爲シ得ヘキ者ニ至リテハ茲ニ其一アルノミ即チ前ニ陳述シタル十六歳ニ滿タサル幼者ニシテ既ニ婚姻ヲ爲シタル者はナリ此幼者ハ先キニ婚姻ヲ爲スニ就キ承諾ヲ要シタル者ノ允許ヲ得其財產ノ全部若シハ一部ヲ其配偶者ニ生存中ノ贈遺ト爲スヲ得可シト雖モ遺囑贈遺ハ仮令其許可ヲ得テ爲シタルモ之ヲ無効トス何トナレハ法律ニ之ヲ特許セサレハナリ

○生存中ノ贈遺若クハ遺囑贈遺ニ因テ財產ヲ收受スルノ無能力

吾輩前ニ於テ既ニ財產ヲ處置スルニ就キ無限ノ無能力者ヲ列舉セリ今爰ニ於テハ生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺ヲ收受スルニ就キ無限ノ無能力者ヲ説明セントス即左ノ如シ

十

第一 生存中ノ贈遺ノ時又ハ遺囑贈遺者ノ死去ノ時未タ懷妊セサル者

十一

第二 無期ノ施体ノ刑ニ處セラレタル者

第三 貧院、邑ノ貧民又ハ公用ノ公舎ニ爲シタル生存中ノ贈遺又ハ遺囑贈遺ニシテ政府ヨリ之ヲ領承スルノ許可ヲ得サル者

此第三ノ無能力ヲ定メタル法律ノ目的ハ之ヲ爰ニ畧陳スルコト必要ナリト信ス抑々此法律ノ目的ハ一ハ老年ノ者又ハ感動ノ甚シキ者ニ於テ屢々輕忽ニ爲ストコロノ贈遺ニ對シ其親族ヲ保護シ他ノ一ハ國家ノ利益ヲ保護スルニアリ何トナレハ此等ノ無形人ニ於テ財產ヲ蓄積スルトキハ左ノ三個ノ危害ヲ醸生スルカ故ナリ (一) 無形人ニ屬スル財產ハ其產出最モ少シ何トナレハ此財產ヲ支配スル者ハ多クハ一己人ノ財產ヲ支配スルカ如ク親切ナラサルカ故ナリ (二) 一己人

ノ死去スルトキハ政府ニ於テ所有權ノ移轉稅ヲ受クルト雖モ無形人ハ死去スルトキハ以テ此人ニシテ財產ヲ所有スルトキハ其財產ハ恰モ死物トナリタルモノ、如クナルヲ以テ其移轉稅ヲ徵收スルノ期アルナシ故ニ止ムヲ得ス其部分ハ人民ヨリ徵收セサルヲ得サルニ至ルナリ (三) 此無形人ニシテ其需要ヲ充タスニ就キ豐富ナルハ敢テ不可ナリト云フコアラスト雖モ其餘財アルトキハ驕奢ヲ極メ或ハ之レカ爲メニ種々ノ混亂ヲ生ス可キナリ

○生存中ノ贈遺及遺囑贈遺ヲ爲シ又ハ之ヲ收受スルニ就キ有限ノ無能力

第九百七條ニ循ヘハ十六歳ニ至リタル幼者ト雖モ其後見人ノ爲メニハ遺囑贈遺ヲ爲スニ就キ有限ノ無能力者ナリトス又左ニ列擧スル者ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ爲シ又ハ收受スルニ就キ有限ノ無

能力者ナリ

第一 丁年ニ至リタル幼者ト其後見人後見中ノ計算ヲ終結精釐セ

サリシ者トノ間

第二 私生子ト其父母ノ間

第三 病者ト疾病中ニ之ヲ世話シタル内外科醫及ヒ製藥師又ハ僧

侶トノ間

第三章 處置スルヲ得ヘキ財產ノ制限及減殺

第一款 處置スルヲ得ヘキ財產ノ制限

何人ヲ問ハス卑屬親又ハ尊屬親アル者ハ無償名義ニテハ自己ノ財產ト雖モ隨意ニ處置スルノ全權ヲ有セズ故ニ或ル人過當ノ贈遺ヲ爲ス時之ニ卑屬親アルトキハ其卑屬親若シ卑屬親ナシテ尊屬親アルトキハ此尊屬親ヨリ其贈遺ヲ減殺セシムルヲ得可シ蓋シ此減殺ハ贈遺ヲ

贈遺及遺囑篇

爲シタル者ノ死去シタル後ニ至テ之ヲ定ムルヲ得ヘキナリ今陳述スルカ如ク其滅殺ヲ爲スノ權利ハ獨リ卑屬親ト尊屬親ニ屬スルモノニシテ傍系親ハ此權利ヲ有セサルナリ第九百十六條

如何ナル人ヲ問ハス人タルモノハ皆民權ヲ享有シ及之ヲ執行スルノ權利アルニ由リ要償名義ニテ財産ヲ處置スルトキハ其財産ノ高如何ニ巨額ナルモ此契約ニ由テ第三者ノ獲得シタル利益ヲ滅殺セシムルヲ得サルナリ

○保存スヘキ財産ノ定限

其保存スヘキ財産及處置スルヲ得ヘキ財産ノ高ハ死者ニ卑屬親アル場合ト單ニ其尊屬親アル場合トニ因テ異ナルナリ死者ニ其卑屬親アル時處置スルヲ得ヘキ財産及保存スヘキ財産ノ制限ハ子相續スヘキ包含ノ員數ニ循テ同シカラサルナリ故ニ贈遺者又ハ遺囑者ノ死去ス

ル時ニ當リ嫡出ノ子一人ヲ遺留スルトキハ其財産ノ半額ヲ處置シ他ノ半額ヲ保存スヘク若シ其二人ヲ遺留スルトキハ三分之一ノ財産ハ之ヲ處置シ三分二ノ財産ハ之ヲ保存ス可ク若シ其三人以上ヲ遺留スルトキハ四分ノ一ヲ處置シ他ノ四分ノ三ハ之ヲ保存スルヲ要ス

死者ニ尊屬親アル時其處置スルヲ得ヘキ財産ノ高ハ前ニ陳述シタルカ如キ尊屬親ノ員數ニ拘ハラスシテ父系及母系ニ尊屬親ヲ遺留シ又ハ其一系ニノミ尊屬親ヲ遺留シタル場合ニ循テ異ナルナリ故ニ父系及ヒ母系ニ尊屬親ヲ遺留スルキハ財産ノ半額ヲ處置スルヲ得ヘク若シ其父系若クハ母系ノ一系ニ就テ尊屬親ヲ遺留スルトキハ四分ノ三ヲ處置スルヲ得ヘシ其餘財ハ皆尊屬親ノ爲メニ保存スルヲ要スルモノナリ父系及ヒ母系ニ尊屬親ヲ遺留スルキハ其財産ノ半額ヲ保存ス可シ故ニ其各系ノ尊屬親ハ死者ノ財産總額四分ノ一ニ付テ權利ヲ有

又一系ノミニ付テ尊屬親ヲ遺留スルキハ其四分一ノ財産ヲ保存スヘキヲ要スルナリ

第二款 贈遺及ヒ遺囑贈遺ノ減殺

減殺トハ死者ニ於テ制限外ノ財産ヲ生存中ノ贈遺若クハ遺囑ノ贈遺トナシタルキ預定ノ相續人ニ於テ之ヲ保存シ若クハ其贈遺ヲ受ケタル者ニ對シ之ヲ取戻ス權利ヲ云フ此權利ハ相續者ノ有スル保存權ノ制裁ナルヲ以テ其減殺權ハ此保存權ト共ニ生スルモノナリ斯クテ此保存權ハ相續開始ノ中ニアラサレハ發開セス如何トナレハ其保存權ハ遺物相續ノ一部分ナレハナリ故ニ贈遺ニ由リ其保存權ヲ害シタルヤ否ヤノ問題ヲ決スルハ其贈遺者死去ノキニアルナリ是ヲ以テ其保存額ヲ定ムルニハ遺囑ノ贈遺若クハ生存中ノ贈與ヲ爲シタルキニ就テ其保存權ヲ有スル者ノ身分及ヒ其員數ヲ考察セスシテ遺囑者若ク

ハ贈遺者ノ遺留シタル保存權ヲ有スル相續者ノ員數ト身分トヲ考察スルヲ要ス其他財産ノ点ニ就テハ遺囑ノ贈遺若クハ生存中ノ贈遺ヲ爲シタル時ニ於ケル本人ノ財産高ヲ考察セスシテ其贈遺ヲ爲サ、ルトキハ贈遺者死去ノ時ニ幾何ノ財産ヲ遺留シタルヤヲ考察スルヲ要スルナリ

前述ノ如クナルヲ以テ贈遺ヲ爲シタル日ニ其贈遺者ノ死去シタルトキハ之ヲ減殺セラレスト雖其死去ノ時ニ至テ之ヲ過當ノ贈遺ト認メ減殺セラル、コアリ或ハ之ニ反シテ贈遺ノ日ニ死去シタルトキハ減殺セラレタリト雖其死去ノ日ニ至テハ至當ノ贈遺ト認メ之ヲ減殺セラレタルコアルヘシ斯ノ如ク其減殺スルト減殺セサルトハ渾テ遺囑ノ贈遺若クハ生存中ノ贈遺ヲ爲シタル時ヨリ將來ニ關シテ確知スルヲ得ヘキナリ

○贈遺ヲ減殺スルヲ得ヘキ人

生存中ノ贈遺若クハ遺囑ノ贈遺ヲ減殺シ得ヘキ者ハ第九百二十一條ニ記載スル如ク保存權ヲ有スル相續人及ヒ此相續人ノ相續人其他此相續人ノ代權人ニアリトス然レモ他ノ受贈者及ヒ受囑者其他死者ノ債主ハ其減殺ヲ要求スルヲ得ス是蓋シ此等ノ人ハ皆保存權ヲ有セサルカ故ナリ

○減殺ヲ爲スノ順序

今茲ニ減殺ヲ爲スノ順序ヲ述フレハ一言以テ之ヲ了知セシムルヲ得ヘシ乃チ保存權ヲ害シタル贈遺ヲ減殺スルヲ要スル是レナリ故ニ茲ニ左ノ三個ノ場合ヲ考察スルヲ要ス 第一 死者ニ於テ生存中ノ贈遺ノミチヲ爲シタル場合 第二 遺囑ノ贈遺ノミチヲ爲シタル場合 第三 生存中ノ贈遺ト遺囑ノ贈遺トヲ爲シタル場合

二

三

其第一ノ場合即チ生存中ノ贈遺ノミチヲ爲シタル時ニ於テ其贈遺ヲ爲シタル回数ニ亘ルキハ先ツ其最終ニ爲シタル贈遺ヨリ減殺シテ其前次ノ贈遺ニ及ホシ逐次舊時ノ贈遺ニ減シ及ホスヘシ此場合ニ於テハ則最新ノ贈遺ヲ減盡シ而シテ后其次ノ贈遺ヲ減殺スルヲ要ス 又其第二ノ場合即チ遺囑贈遺ノミチヲ爲シタル場合ニ於テハ生存中ノ贈遺ヲ爲シタル場合トハ異ニシテ最舊ノ遺囑贈遺ト最新ノ遺囑贈遺トヲ區別シテ減殺スルノ例ヲ用ユルヲ得ス如何トナレハ遺囑贈遺ヲ爲シタル時ハ如何ニ異ナリト雖モ遺囑ノ贈遺ハ總テ同時即チ遺囑者ノ死去ノ時ニ當テ其効ヲ生スルカ故ナリ 又其第三ノ場合即チ生存中ノ贈遺遺囑ノ贈遺トヲ爲シタル場合ニ於テハ常ニ遺囑ノ贈遺ヲ以テ最新ノ贈遺トス如何トナレハ遺囑ノ贈遺ハ前陳ノ如ク遺囑者死去ノ時ニアラサレハ其効ヲ生セサルニ因リ常

ニ生存中ノ贈遺ノ后ニ効チ生スルモノナレハナリ然ラハ則チ最新ノ贈遺ヨリ順次減殺スルノ原則ナルニ因リ遺囑贈遺ハ必ス生存中ノ贈遺前ニ減殺セラル、ヲ要スルナリ故ニ生存中ノ贈遺ハ遺囑ノ贈遺ヲ減殺シテ相續者ノ保存權ヲ補充シ尙ホ足ラサルトキニアラサレハ減殺セラレサルナリ

○遺物ノ返還ト減殺トノ區別

吾輩茲ニ相續篇ヲ説明スルニ當テ述ヘタル遺物ノ返還ト減殺トノ區別ヲ陳述シ尙ホ能ク減殺ノ如何ナルモノナルヤチ明ニセントス

第一 返還ハ相續者間ニ同等主義ヲ維持スルヲ目的トスルニアリト雖モ減殺ノ權利ハ道德上ノ考察ニ基クナリ如何トナレハ特權ヲ有スル或ル親屬ニ養料ヲ與フルヲ保護スルノ目的ニアレハナリ 第二百三條 第二百五條ヲ觀ルヘシ

四

五

第二 返還ヲ請求スルハ共有ノ權利ナリ如何トナレハ相續人ハ總テ之ヲ請求スルノ權利ヲ有スルカ故ナリ之レニ反シ減殺ノ權利ハ特別ノ利益ニシテ一ノ特權ナルヲ以テ或ル相續人ニアラサレハ減殺ヲ要求スル能ハサルナリ

第三 返還ハ遺物分派ノ時返還スルニ及ハサルノ特約ナキ生存中ノ贈遺ヲ受ケタル相續者ニ依テ爲スヘキモノナリ之レニ反シ減殺ハ其特約ナキ生存中ノ贈遺ヲ受ケタル相續人ハ勿論其特約アル相續人及ヒ生存中ノ贈遺ヲ受ケタル他人ニ對シテ爲スチ得ヘキモノナリ

第四 遺物分派ノ時返還スルニ及ハサルノ特約ナキ贈遺ハ假令死者ノ財産中小部分ニシテ處置スルチ得ヘキ財産ノ制限ヲ超過セスト雖モ之ヲ返還スルチ要ス之ニ反シテ減殺ハ過度ノ贈遺即チ

財産ノ四分一以上ヲ超過スル時ニアラサレハ生セサルナリ何トナレハ處置スルヲ得ヘキ財産ハ此四分一以下ニ降ルコトナキカ故ナリ

第五 遺物分派ノ時返還スルニ及ハサル特約ヲ爲スヲ得ルト雖モ減殺ヲ爲サ、ルノ特約ヲ爲スヲ得ス

第六 贈遺者ノ相續ヲ辭謝シ返還ヲ爲スノ義務ヲ免ル、ヲ得ルト雖モ減殺ヲ受クヘキ受贈者ハ其減殺ヲ免ル、ノ方法アルナシ

第七 返還ノ場合ニ於テハ吾輩ノ述クルカ如ク不動産ハ相續開始ノ時ニ就テ評價シ動産ハ贈遺ヲ爲シタル時ニ就テ評價スト雖モ減殺ノ場合ニ於テハ動産不動産ヲ問ハス贈遺ヲ爲シタル時ノ模様ト相續開始ノ時ノ價トニ准シテ算定スヘシ此法律ノ意ハ或ハ贈遺物ヲ死者ノ處置スルヲ得ヘキ資産中ニ存在スルモノト看做

六

シ或ハ遺物中ニ遺留シタル財産ノ如ク看做スヲ欲スルトニアリ例ヘハ一ノ土地ヲ贈遺ト爲ス時其土地ノ現價千圓ナリ然レモ其贈遺者ノ死去ノ日ニ至テハ二千圓ノ増價ヲ生セリ此場合ニ於テハ其千圓ノ原價ヲ遺物中ニ含蓄スヘキモノトスルヤ又ハ二千圓ノ増價ヲ遺物中ニ入ルヘキモノトスルヤ法律ハ爰ニ區別ヲ爲シ若シ受贈者ノ費用ニ因テ増加シタルモハ單ニ其千圓ヲ遺物ノ合部中ニ入ルヘキモノトス如何トナレハ贈遺者ノ費用ニ係ラサルモノヲ遺物中ニ包含セシムルノ理ナキカ故ナリ然レモ其贈遺ト爲シタル土地ノ近傍ニ繁華ナル市街ノ生シタルカ如キ意外ノ變ニ由テ増價シタルトキハ其二千圓ヲ遺物ノ合部中ニ入ルモノトスルヲ要ス如何トナレハ此増價ハ其贈遺者ニ於テ此土地ノ所有者タリシニ於テハ其遺物中ニ存在スルモノナルカ故ナリ

此例ニ反シ其土地ヲ贈遺トセラレタル時ハ二千圓ノ價ヲ有セリト雖モ贈遺者死去ノ日ニ至テハ其價千圓ニ減少セリ此場合ニ於テ其減價若シ受贈者又ハ其代權人ノ過失ヨリ生シタルトキハ贈遺ノ時ノ價即チ貳千圓ヲ遺物ノ合部中ニ包含スルモノトス然レモ其減價若シ意外ノ變ニ由テ生シタルトキハ單ニ其贈遺者死去ノ時ノ價即チ千圓ヲ遺物ノ合部中ニ存スルモノト思考スヘキヲ要ス

此規則ハ則チ不動産ノ如ク動産ニモ亦適用スルヲ得ヘシ其理由ハ第九百二十三條ニ於テハ其財産ノ區別ヲ爲サ、ルカ故ナリ

第八 返還スヘキ物件ヨリ生シタル果實ニ就テハ常ニ遺物發開ノ時ヨリ計算スヘシ然レモ減殺ニ屬スル物件ノ果實ハ時トシテハ遺物發開ノ時ニ就テ計算シ時トシテハ減殺請求ノ日ニ就テ計算

八

九

スヘシ其遺物發開ノ日ニ就テ計算スルハ遺物發開ノ時ヨリ一年内ニ減殺ノ要求ヲ爲ス時ニアリ又減殺請求ノ日ヨリ計算スルハ其請求ヲ遺物發開ヨリ一年后ニ爲シタル時ニアルナリ
第九百二十八條參看ス

第九 受贈者ニ於テ不動産ヲ第三者ニ讓渡シタルノ后之ヲ返還スルヲ要スル場合ト雖モ常ニ其讓渡ヲ妨ケサルヘシ如何トナレハ吾輩ノ既ニ畧陳セルカ如ク返還ノ訴權ハ其不動産ヲ讓受ケタル第三者ニ對シ施行セラル、ヲ得サルカ故ナリ然レモ減殺ノ場合ニ於テハ若シ相續人ノ保存權ヲ害スルキハ受贈者ニ於テ爲シタル不動産ノ讓渡ハ確定ノモノニアラサルナリ故ニ其不動産ヲ讓受ケタル第三者ハ保存權ヲ有スル相續人ヨリ其不動産ヲ取上ケラル、トアルヘシ
第九百三十條參看

第四章 生存中ノ贈遺

吾輩前章マテニ於テハ生存中ノ贈遺及遺囑贈遺ノ通則ヲ陳述セリ今本章ニ於テハ唯生存中ノ贈遺ニ關スル規則ノミヲ述ヘ次章ニ於テ遺囑贈遺ニ關スル規則ノミヲ説明スルアラントス

第一款 生存中ノ贈遺ノ法式

吾輩ノ既ニ陳述セシカ如ク生存中ノ贈遺ノ契約ハ有式ノ契約ナルヲ以テ法律ニ記載シタル法式ニ依ラサレハ仮令双方ノ承諾アルモ其贈遺ハ無効ナリトス故ニ公證人公正官吏ニテ双方ノ承諾ヲ證書ニ記載シタルニアラサレハ其契約ノ効ナキナリ是ヲ以テ之ヲ見レハ通常ノ契約即チ承諾ノミニテ成立ツトコロノ契約ニ就テ記スル證書ハ後日其契約ヲ證スル爲メニスト雖モ生存中ノ贈遺ニ就キ公正證書ヲ要スルハ其契約ヲ證スル爲メニストルコアラヌシテ之ヲ其一要件トス故ニ此

十

十一

要件ヲ虧クトキハ全ク無効トナルナリ斯ノ如ク生存中ノ贈遺ヲ有式ノ契約トシテ鄭重ニナシタルノ所以ハ一ハ贈遺者ノ親屬ニテ正當ニ企望シタル財産ヲ他人ニ授與シテ其親屬ノ利益ヲ害スルコトアルヲ以テ之ヲ保護スルノ目的ニアリ其他ハ贈遺者ニテ思慮ヲ爲サス且充分ノ自由ナクシテ輕忽ニ贈遺ヲ爲シ或ハ脅迫セラレテ贈遺ヲ爲スニ當リ公正官吏ノ面前ニテ之ヲ爲サシムル時ハ是ニ於テ更ニ注意ヲ爲シ其容易ナラサルヲ知覺シ其意ヲ決セシムルコトアルナリ
公證人ニ於テ此證書ヲ記スルノ法式ハ佛國共和曆第十一年風月十九日ヨリ三
月廿日迄二十五日ノ法律ニアリ此法律第九條ニ依レハ二名ノ公證人ニテ證書ヲ記スルトキハ其一名ハ之ヲ記シ他ノ一名ハ其立會ヲ爲スヘク若シ公證人一名ニテ之ヲ記スルトキハ證人二名ノ立會ヲ要スルナリ

○生存中ノ贈遺ノ法式ニ從フヲ要セサル種類

茲ニ右ノ法式ニ從フヲ要セサル生存中ノ贈遺アリ其種類左ノ如シ
 第一 手渡シ贈遺○此手渡シ贈遺ハ特別ニ指定セラレタル有形ノ動
 産ヲ贈遺者ヨリ受贈者ニ引渡シタルニアラサレハ確定セサルナリ此
 事ニ就テハ法律ニ明文ナシト雖モ實際ニ於テハ勿論之ヲ許可シ且法
 律歴史又ハ第八百五十二條等ノ意味ニ就テ考フルモ法律ノ精神ハ單
 ニ引渡アルノミニテ此贈遺ヲ爲スヲ得ヘキヲ知ル何トナレハ該條ニ
 載スル所ノモノハ生存中ノ贈遺ト看做スヘキトコロノモノニシテ生
 存中ノ贈遺ノ法式ニ從フヲ要セサレハナリ左ニ該條ノ全文ヲ掲ケ之
 ヲ示サントス(給養、保育、教訓ノ費用、工藝、修業ノ費用、尋常器具ノ費用、婚
 姻、及習慣ノ贈遺ハ全ク返還スルニ及ハス)
 第二 間接ノ贈遺○此贈遺トハ法律上ニ就テ一見スレハ生存中ノ贈

遺ト別個ノ性質ヲ有スルモノ、如シト雖モ其實ハ生存中ノ贈遺ノ規
 則ニ依遵スヘキ所爲ヨリ生スルモノニ云フ例ハ或ル指定シタル人
 ノ爲メニスルノ意ヲ以テ無償名義ニテ爲シタル債權ノ拋棄又ハ同シ
 シ無償名義ニテ爲シタル義務釋放ノ如シ契約篇ニ就テ是等ノ所爲ニ
 付キ法律上特別之ヲ庇護スル所以ハ成ルヘク速ニ義務者ノ義務ヲ解
 キ訴訟生スヘキノ害ヲ避クルノ目的ニアルナリ
 第三 外形ハ要償名義ノ契約ノ如クニシテ其實ハ第三者ノ爲メニ爲
 シタル生存中ノ贈遺○例ヘハ甲ノ家屋ヲ千圓ニテ乙ニ賣却シ乙ヨリ
 甲ノ弟丙ニ畢生間ノ年金百圓ヲ拂フヘキコトヲ契約ス今甲ヨリ乙ニ
 負ハシメタル義務ハ則甲ノ弟ナル丙ニ贈遺ヲ爲スモノナリ然レモ此
 贈遺ハ仮令公證人ノ面前ニテ爲サ、ルモ適法ノモノナリトス故ニ此
 贈遺ハ公正證書又ハ私ノ證書又證書ナクシテ行フヲ得可シ

吾輩此第一章即チ總則ヲ説明スルニ當リ生存中ノ贈遺ハ確定ノ所爲
 ニシテ其契約ヲ爲シタル後ハ擅ニ之ヲ取消スヲ得サルヲ陳述セリ
 ト雖モ若シ贈遺者一己ノ意ニ關スル契約ヲ以テ生存中ノ贈遺ヲ爲ス
 トキハ之ヲ無効トス何トナレハ權利者即受贈者ニ於テ義務者即贈遺
 者ヲ強制スル方法ナキカ故ナリ故ニ生存中ノ贈遺契約ヲ爲ス時受贈
 者ニ於テ贈遺者一己ノ意ヲ以テ之ヲ左右スルヲ得サル權利ヲ得タル
 ニ於テハ適法ナリトス其規則ヨリ左ノ結果ヲ生ス

第一 將來得ヘキ財産ヲ生存中ノ贈遺ト爲ストキハ其贈遺ヲ無効ト
 ス故ニ現在ノ財産ト將來得ヘキ財産トヲ贈遺スル時其將來得ヘキ財
 産ニ就テハ無効ナリト雖モ現存ノ財産ニ就テハ其効アリトス

第二 將來ニ生スルコトアルヘキ贈遺者總テノ負債ヲ受贈者ニテ償
 却スヘキ義務ヲ負ハシメ生存中ノ贈遺ヲ爲シタル時ハ又之ヲ無効ト

ス何トナレハ贈遺者ハ隨意ニ負債ヲ契約スルヲ得ヘキニ由リ若シ既
 ニ契約シタル贈遺ヲ爲スヲ欲セサルトキハ他人ニ負債ヲ爲シ其贈遺
 ノ利益ヲ全ク滅却セシムルカ故ナリ

第三 贈遺者ニ於テ其贈遺ト爲シタル財産ヲ隨意ニ處置スルノ權利
 ヲ保有シテ贈遺ノ契約ヲ爲シタルトキハ之ヲ無効トス然レモ其贈遺
 ト爲シタル財産ノ一部ニ付キ其處置權ヲ保有スルトキハ其部分ニ付
 テノミハ其契約ヲ無効ナリトス

○生存中ノ贈遺取戻シノ權

生存中ノ贈遺ハ其原則確定ノ所爲ナリト雖モ贈遺ヲ爲ス時贈遺者ハ
 受贈者ノミ己レヨリ先ニ死去スル場合又ハ受贈者及其卑屬親ノ己レ
 ヨリ先ニ死去スル場合ニ於テハ其贈遺ト爲シタル財産ヲ取戻ス契約
 ヲ爲スヲ得可シ斯ノ如ク取戻シノ契約ヲ爲ストキハ一旦贈遺ト爲シ

タルモノヲ取消スカ如クナルヲ以テ贈遺ハ確定ノ所爲タル原則ニ反
 ナルカ如ク思考スト雖モ決シテ然ラス何トナレハ其先ニ死去スルヤ
 否ハ贈遺者一己ノ意ニ關セサレハナリ
 然レモ法律ハ之ニ制限ヲ設ケ其取戻シノ契約ハ贈遺者ノミノ爲メニ
 アラサレハ爲スヲ得サルモノトセリ故ニ其相續人其他ノ人ノ爲メニ
 爲シタル贈遺物取戻ノ契約ハ無効ナリトス
 右ノ如ク取戻シノ約條ヲ爲スハ即チ解除ノ條件ヲ以テ贈遺ヲ爲スモ
 ノナリ故ニ其條件ノ生ヌル時即受贈者等ノ贈遺者ヨリ先ニ死去シタ
 ルトキハ其贈遺ヲ爲ス前ノ模様ニ復シ受贈者ハ曾テ其財産ノ所有者
 ニアラサルヲ又贈遺者ハ從前ヨリ其所有者タリシモノ、如ク思考ス
 ルナリ然レモ例外ニテ受贈者ノ婦ニ對スル法律上ノ書入質ニ就テハ
 此規則ヲ適用スルヲ得ス第九百五十二條ヲ參觀ヘシ

第二款 生存中ノ贈遺ハ確定タル規則ノ例外

本款ニ定ムルトコロノ例外トハ彼ノ生存中ノ贈遺ハ確定ニシテ取消
 スヘカラストノ規則ニ由ラス之ヲ取消スヲ得ヘキ場合ヲ云フナリ扱
 テ其取消ノ原由ニ三個アリ第一受贈者ニ於テ義務ヲ執行セサルヲ第
 二受贈者ニ於テ恩義ニ背クヲ第三贈遺者贈遺ノ時ハ子ナクシテ後ニ
 子ノ出生スルヲ是レナリ以下其三原由ヲ説明セントス
 第一 受贈者ニ於テ義務ヲ執行セサルニ由リ贈遺ヲ取消ス事
 普通契約ノ場合ニ於テ双務ノ契約ニ關シ一方ノ者ニ於テ其義務ヲ盡
 サ、ルトキハ自ラ其契約ヲ解除スヘシ然レモ其義務ヲ執行シタル者
 ハ自己ノ好ムトコロニ由リ或ハ其契約ヲ解除シ或ハ之ヲ維持シテ他
 ノ一方ノ者ニ義務ヲ執行セシムルヲ得可シ今此生存中ノ贈遺ノ場合
 ニ於ケルモ亦其受贈者ニ於テ義務ヲ執行セサルトキハ贈遺ノ解除ヲ

請求シ及其贈遺ト爲シタル物ノ猶ホ現存スルトキハ之ヲ取戻シ若シ
 受贈者ノ過失ニテ滅盡シタルトキハ其價ヲ拂ハシムルヲ得可シ是レ
 蓋シ法律ハ双方ノ意ヲ測リ若シ受贈者ニ於テ義務ヲ執行セサルトキ
 ハ其贈遺ヲ解除スヘキコトヲ默約シタルモノト想像シタルナリ
 以上説明スルカ如ク受贈者ニ於テ義務ヲ執行セサルトキハ自^ガ其贈
 遺ヲ解除スルハ唯將來ニ就テ解除スルノミナラス既往ニ就テモ亦解
 除スルモノトス故ニ其贈遺ト爲シタル物件ハ贈遺ヲ爲サ、ル以前ノ
 模様ニ復スヘシ是ヲ以テ受贈者其贈遺ト爲シタル物件ヲ他人ニ讓渡
 シタルトキハ之ヲ無効トシ贈遺者ハ受贈者ノ名義ニテ爲シタル書入
 質其他ノ負擔ヲ掃除シ自由ノ財産トシテ之ヲ取戻スヲ得ヘシ
 此ノ解除ハ縱令贈遺者ニ於テ裁判所ニ其要求ヲ爲スト雖^モ未タ之ヲ
 以テ其贈遺ヲ解除スヘカラス故ニ受贈者ニ於テ其義務ヲ執行スヘキ

定期後又ハ之ヲ執行スルノ催促ヲ受ケタル後又ハ其解除ノ要求後ト
 雖^モ其義務ヲ執行シ此ノ解除ヲ防クヲ得ヘシ然ラハ則チ其解除ヲナ
 スノ時ハ何レニアルヤ其時ハ則チ贈遺者ノ要求ニ依リ裁判所ニ於テ
 其解除ヲ宣告シタル時ニアルナリ

第二 受贈者ニ於テ恩義ニ背キタル原由アルニ依リ贈遺ヲ解除スル
 事

此ノ恩義ヲ忘レタルノ原由ニ由リ贈遺ヲ解除スルハ受贈者ニ於テ一
 般ノ道德ヲ害シタルニ由リ法律上ヨリ宣告スルトコロノ刑罰ナリ故
 ニ贈遺者ハ之ヲ罰スル爲メニ其贈遺ト爲シタル財産ヲ取戻スヲ得可
 シ然レ^モ此ノ贈遺ハ唯將來ニ就テノミ其効ヲ失フモノニシテ既往ニ
 就テハ其効ヲ失セサルモノトス何トナレハ其受贈者ハ此ノ解除ノ時
 ニ至ル迄當然贈遺物件ノ所有權ヲ得タルカ故ナリ是ヲ以テ其贈遺物

件ニ付キ之ト契約シタル第三者ハ其既得シタル權利ヲ保存スルヲ得
ヘキナリ

此ノ恩義ヲ忘レタル所爲ハ法律上之レヲ三個ニ制限セリ故ニ裁判所
ハ此ノ制限内ニアラサレハ此ノ解除ヲ宣告スルヲ得ス

第一 受贈者ニ於テ贈遺者ノ生命ヲ害セント謀リタル時

此ノ場合ニ於テハ此原由ノ爲メニ受贈者ノ罰セラレタルヤ否ヤニ關
セス唯裁判上ニ於テ贈遺者ノ生命ヲ害セント謀リタルヲ認メタル
ノミニテ足レリトス故ニ其生命ヲ害セント謀リタル時ヨリ十年ヲ經
過シ公訴期限ヲ過ルト雖モ此ノ贈遺解除ノ訴ハ其効ヲ失ハサル可シ
第二 贈遺者ニ對シテ苛虐犯罪又ハ侮辱ノ罪人トナリタル時
此ノ苛虐トハ贈遺者ニ於テ生命ヲ全フシ難キカ如キ虐待ヲ受ケタル
場合ヲ云ヒ犯罪トハ贈遺者ノ身体又ハ財産ニ對シ犯シタル所爲ニシ

テ刑法上罰セラル、トコロノモノヲ云ヒ侮辱トハ書面、談話或ハ總テ
ノ所爲ニ依テ贈遺者ノ名譽ヲ害スル場合ヲ云フナリ總テ是等ノ場合
ニ於テハ固ヨリ重大ト稱スヘキ性質ヲ有スルヲ要ス故ニ此ノ原由ニ
依リ贈遺ヲ解除スルトセサルトハ其時ノ模様ニ依リ裁判官ニ於テ之
ヲ斟酌スヘシ

第三 贈遺者ニ養料ヲ給セサル時

茲ニ就テ考フレハ受贈者ヨリ贈遺者ニ養料ヲ給スルハ法律上ニ定メ
タル一ノ義務ナリトス
恩義ヲ忘レタルニ由リ贈遺ヲ解除スル場合モ亦義務ヲ執行セサルニ
依リ解除スルトキノ如ク裁判所ノ宣告アルニアラサレハ之ヲ解除ス
ヘカラサルナリ
恩義ヲ忘レタルニ由リ贈遺ヲ取消スハ總テ短カキ期限内ニ於テスル

ヲ要ス何トナレハ永ク其取消ヲ爲サ、ルハ之ヲ宥恕シタルモノト推測スレハナリ斯クテ法律ハ其期限ヲ贈遺者ニ於テ受贈者ノ犯罪ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得タル一年内ト定ム故ニ此ノ期限内ニ贈遺ノ解除ヲ爲サ、ル時ハ訴ヲ爲スノ權利ヲ失フモノトス

茲ニ恩義ヲ忘レタル原由アリト雖取消スヲ得サル例外ノ贈遺アリ此ノ贈遺トハ婚姻ノ爲メニ爲シタル贈遺ナリ法律ニ此ノ例外ヲ設ケタル原由ハ則チ婚姻ノ爲メニ爲シタル贈遺ハ單ニ直接受贈者ナル配偶者ノミニ爲シタルニアラスシテ其一方ノ配偶者及ヒ婚姻ヨリ生レタル子ニモ亦之ヲ爲シタルモノナレハ若シ直接受贈者ノ恩義ヲ忘レタルヲ以テ其贈遺ヲ取消ストキハ則無辜ノ者ヲ罰スルニ至ル可シ斯ノ如キハ法律ノ欲セサル所ナリ

第三 贈遺者ニ子ノ出生シタルニ由リ贈遺ヲ解除スル事

贈遺ヲ爲ス時ニ於テ子ナキ者ノ爲シタル生存中ノ贈遺ハ其後贈遺者ニ子ノ出生シタルトキハ之ヲ取消スヲ得可シ其理由ハ子ナキ者ノ贈遺ヲ爲スヤ必ス現在其子ナク且將來ニ於テモ子ヲ有セサルモノト思考シテ之ヲ爲シタル者ト推測ス故ニ此ノ贈遺ヲ爲シ後ニ子ノ生レタル場合ニ於テハ此ノ贈遺ヲ取消スノ黙約ヲ爲シタルモノト見做サ、ル可ラス

此ノ法律ノ推測ハ甚タ鞏固ナルモノニシテ假令契約書中ニ其反對ノ約條即チ後ニ子ノ生ル、コトアルモ贈遺ヲ取消サ、ルノ約條アルモ其効ナカル可シ

子ノ生レタル原由ニ由リ贈遺ヲ取消シトスルニハ二個ノ條件アルヲ要ス即チ左ノ如シ

第一 贈遺ヲ爲ス時其贈遺者ニ現在生存シタル子若クハ卑屬親ナキ

贈遺及遺囑篇

一〇生存中ノ贈遺ヲ爲ス時ニ懷胎シタル子ハ現在生存シタル子ノ如ク思考ス可カラス故ニ此ノ子ノ出生シタルトキハ贈遺ヲ爲シタル時ニ生存シタル子ナキモノト爲シ其贈遺ヲ取消スヲ得可シ
 第二 贈遺ノ後其贈遺者嫡出ノ子又ハ嫡出ト認メタル私生子ノ生レタル一〇茲ニ注意スヘキハ生存中ノ贈遺ヲ爲ス前ニ生レタル私生子ヲ嫡出ノ子ト認ルコトアルモ之ヲ以テ此ノ第二ノ條件即チ嫡出ノ子ト認メタル私生子ト見做ス可カラサル一〇是ナリ故ニ贈遺ノ後ニ私生子ノ出生シ及ヒ其之ヲ嫡出ト認メタルトキニアラサレハ其取消ヲ施行スルヲ得ス
 右ニ述ヘタル二條件ノ具備シタルニ由リ生存中ノ贈遺ヲ取消ストキハ通常契約ノ場合ニ於テ其契約ヲ解除スル如ク其贈遺トシタル物件ヲ其之ヲ爲サ、ル時ノ模様ニ復スヘシ故ニ受贈者ニ於テ其贈遺トセ

ラレタル物件ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ之ヲ無効トシ又其贈遺トセラレタル不動産ヲ他人ニ書入質ト爲シ又ハ之ニ其他ノ義務ヲ負擔セシムルトキハ皆之ヲ滌掃シテ贈遺者ニ取戻サシムルヲ得可シ
 吾輩ノ既ニ説述シタル所ニ依レハ受贈者ニ於テ義務ヲ執行セス又ハ恩義ニ背キタルノ原由ニ由テ其贈遺ヲ取消シトナスハ法律上當然其効ヲ生スルモノニアラスシテ裁判所ノ宣告ヲ待テ始メテ其効ヲ生スヘシト雖モ其子ノ出生シタル原由ニ依リ生存中ノ贈遺ヲ取消スハ法律上當然其効ヲ生スルモノニシテ敢テ裁判所ノ宣告ヲ待タサルナリ然レモ三十年間之ヲ占有スルトキハ其贈遺ヲ取消スヲ得ス蓋シ此ノ三十年ノ期限ハ贈遺ノ後始メテ子ノ出生シタル日ヨリ起算スルカ如シト雖モ法律ハ之ニ依ラス其三十年ヲ贈遺者ニ最終ノ子ノ出生シタル日ヨリ起算セリ故ニ第二子ハ第一子ノ出生ノ後十年目ニ生レタル

トキ其第一子ノ出生ヨリ第二子ノ出生迄ニ經過シタル十年間ハ三十年ノ時限中ニ計算セス而シテ此ノ三十年ノ利益ヲ受クヘキ者ハ第一ハ受贈者第二ハ其代權人第三ハ贈遺トセラレタル物品ヲ所持スル者ニアリ

第五章 遺囑ノ贈遺

第一款 遺囑贈遺ノ法式ニ付テノ総則

○遺囑贈遺ノ種類

遺囑ノ贈遺ニハ通常ノモノアリ特別ノモノアリ特別ノ遺囑贈遺トハ即チ左ノ如シ

- 第一 軍人軍屬ノ遺囑贈遺
- 第二 時疫其他傳染病ノ流行中ニ爲ス遺囑贈遺
- 第三 航海中ニ爲ス遺囑贈遺

第四 外國ニ於テ佛蘭西人ノ爲ス遺囑贈遺

右ニ述ヘタル遺囑贈遺ノ種類ヲ特別ニ遺囑贈遺ト稱スルハ通常ノ遺囑贈遺ノ法式ニ由ラス簡單ナル特別ノ法式ニ從フテ爲スヲ得ヘキカ故ナリ

又通常ノ遺囑贈遺ニハ三種アリ即チ左ノ如シ

- 第一 手記ノ証書ヲ以テ爲ス遺囑贈遺
- 第二 公正ノ証書ヲ以テ爲ス遺囑贈遺
- 第三 秘密ノ遺囑贈遺

右ニ述ヘタル手記ノ証書ヲ以テ爲ス遺囑贈遺トハ遺囑書ヲ遺囑者自ラ記載スルトコロノモノヲ云ヒ公正ノ証書ヲ以テ爲ス遺囑贈遺トハ四名ノ証人ヲ立テ二名ノ公證人ニテ記スルトコロノ遺囑書ヲ云ヒ秘密ノ遺囑贈遺トハ遺囑者自ラ其証書ヲ記スルカ又ハ他人ヲシテ之ヲ

記載セシメタル後之ヲ封緘シ之レニ捺印シタル後公証人一名及ヒ數名ノ証人ニ渡シ其ノ遺囑書ハ自ラ記シテ手署シタルヲ若クハ他人ニ記セシメテ自ラ手署シタルヲ述ヘ公証人ハ其封紙ノ表ニ其陳述ヲ記シ遺囑者公証人証人モ共ニ之ニ手署スヘキモノヲ云フ

法律上斯ノ如ク三種ノ遺囑贈遺ノ方法ヲ設ケタルハ唯一ノ法式ノミニテハ實際遺囑贈遺ヲ爲ス能ハサルコトアルヲ以テナリ其内手記ノ証書ヲ以テ遺囑贈遺ヲ爲スニハ茲ニ二個ノ利益アリ其一ハ若シ此法式ニ從フテ遺囑贈遺ヲ爲スニ於テハ何レノ場所何レノ時ヲ問ハス將サニ死セントスル時ニ至ルマテ隨意ニ之ヲ爲スヲ得ヘキニアリ其第二ノ利益ハ隱然遺囑贈遺ヲ爲シ此贈遺ノ爲メ利益ヲ失フトコロノ親族ニ怨恨ノ念ヲ生セシムルヲ防クニアリ

右ニ反シ公正ノ証書ヲ以テ爲ス遺囑贈遺ニハ此ノ如キ利益アルヲ見

ス何トナレハ此遺囑ハ公証人其他証人ノ面前ニテ爲スモノナレハ隱然之レヲ爲スヲ得サルノミナラス其法式ヲ盡スニ付テハ証人及ヒ公証人ヲ要スルニ付キ其ノ會合前ニ贈遺者ノ死去スルコトアルカ如キ弊害アリ然レモ又一方ニ就テ之ヲ考フレハ公正ノ法式ニ依ルトコロノ遺囑贈遺ノ法方アルヲ以テ大ニ利益アリトス其第一ノ利益ハ手記スルヲ知ラサル者ノ遺囑贈遺ヲ爲ス時ニアリ又其第二ノ利益ハ手記ノ証書ヲ以テスル遺囑贈遺ヨリモ一層其証書ノ力ヲ有スルニアリ終リニ秘密ノ遺囑贈遺モ亦讀ムヲ知テ手記スルコトヲ知ラサル者ノ爲メニ隱然遺囑贈遺ヲ爲サシムルニ於テ利益アリトス然レモ此遺囑贈遺ハ甚タ錯雜シタル規則ニ從フ

右ニ述ヘタル三種ノ通常ノ遺囑贈遺ノ細則ニ付テハ第九百七十條ヨリ第九百八十條迄ノ間ニ於テ之ヲ知ルヘシ

第二款 或ル遺囑贈遺ノ法式ニ特別ノ規則

本款ニテ陳述セント欲スル遺囑贈遺ノ種類ハ則前ニ列記シタル特別ノ遺囑贈遺ニシテ或ハ之ヲ特許ノ遺囑贈遺ト稱スルモノナリ蓋シ通常ノ遺囑贈遺ヨリモ一層簡易ノ法式ニ由リテ執行スルヲ得可キカ故ニ斯ク名稱スルナリ

其特許ノ遺囑贈遺ヲ爲スヲ得ヘキ者ノ内軍人軍屬ハ第九百八十一條ヨリ第九百八十四條マテノ規則ニ從テ遺囑贈遺ヲ爲ス可シ其規則ノ外第一千一條ハ固ヨリ此場合及以下ノ場合ニ適用ス可シ

右規則中軍人軍屬ノ遺囑贈遺ヲ爲スニ就テハ如何ナル人ヲ以テ其證人ト爲スヤヲ規定セス故ニ吾輩ハ此場合ト雖モ法律ハ尙ホ通常ノ遺囑贈遺ノ規則即チ第九百七十五條及第九百八十條ヲ適用スルノ意ニアル可シト信シ此規則ニ從フヲ以テ至當トス

此簡易ノ法式ニ依テ遺囑贈遺ヲ爲スハ之ニ完全ノ法式ヲ以テ爲ストコロノ通常ノ遺囑贈遺ニ比スレハ其信用上害壞ノ差異アリ故ニ遺囑贈遺者通常ノ法式ヲ以テ遺囑贈遺ヲ爲ス自由ナル地ニ歸來シタルトキハ改メテ其遺囑贈遺ヲ爲ス可キヲ要ス然レモ其歸來ノ日ヨリ六ケ月内ニ之ヲ改ムルヲ以テ足レリトス故ニ其猶豫期限内ニ其遺囑書ヲ改メスノ遺囑者ノ死去スルコトアルモ其遺囑ヲ執行ス可シト雖モ其改書ヲ爲サスシテ月後ニ死去シタルトキハ其遺囑ハ無効ナリトス又時疫其他傳染病ノ流行中ニ爲ス遺囑贈遺モ特許ノ遺囑贈遺ニシテ第九百八十五條ヨリ第九百八十七條マテノ規則ニ從フヲ要ス故ニ遺囑者カ時疫其他ノ傳染病ニ罹ルト否トヲ問ハス此原由アルカ爲メ彼ノ地ト此ノ地トノ交通ヲ遮斷セラレタル時ハ渾テ此方法ニ依テ遺囑贈遺ヲ爲スヲ得可シ

又航海中ニ爲ス遺囑贈遺モ特許ノ方式ニ依遵ス可キ遺囑贈遺ニシテ第九百八十八條ヨリ第九百九十八條マテノ規則ニ從フ可シ。佛蘭西人カ外國ニ於テ爲ス遺囑贈遺モ亦特別ノ法式ニ從フテ施行スルヲ要ス其規則ハ則載セテ第九百九十九條及第千條ニアリ故ニ前ノ如ク今之ヲ贅セズ

第三款 遺物相續人ヲ選定スル事及一般ニ遺囑贈遺ノ事

本款ハ僅カニ一箇條ヲ以テ成立ツモノニシテ遺囑贈遺ノ種類ト其性質ヲ指示シタルモノナリ。諸テ遺囑贈遺ニハ幾種アルヤヲ考フルニ爰ニ三種アリ即チ左ノ如シ

- 第一 包括ノ遺囑贈遺
レイグユニツエルセル
- 第二 包括名義ノ遺囑贈遺
レイグナ、チートル、ニウエルセル
- 第三 特定名義ノ遺囑贈遺
レイグナ、チートル、バルチキエリエー

右三種ノ遺囑贈遺ノ如何ナルモノナルヤハ後ノ第四款第五款第六款ニ至リ其説明ヲ俟テ了解ス可シ

斯クテ其遺囑贈遺ハ如何ナル名義ニテ爲スヘキヤヲ見ルニ第千二條第二項ニ左ノ如ク記載セリ曰ク(遺囑贈遺ハ遺物相續人ヲ選定スルノ名義又ハ遺囑贈遺ノ名義ヲ以テ之ヲ爲シタルヲ問ハス包括ノ遺囑贈遺包括名義ノ遺囑贈遺又ハ特定名義ノ遺囑贈遺ニ付キ法律ニ定メタル規則ニ從ヒ其効ヲ生ス可シ)ト此規則ヲ了解セシメントスルニハ少シク羅馬ノ法律及佛蘭西ノ習慣法ヲ知ルヲ要ス故ニ今之ヲ茲ニ畧陳スルハ無益ニアラスト信スルナリ

羅馬ノ法律及佛蘭西國中成文法ノ設ケアリシ國ニ於テハ遺囑贈遺ノ法律ヲ二種ニ區別シ遺物相續人ヲ選定スル遺囑贈遺ト通常ノ遺囑贈遺トセリ其撰定セラレシル相續人ハ正當ノ相續人ト等シク死者ノ財

産ノミチ相續セズ死者ノ一身ヲモ代理シ其權利義務ノ全部ヲ相續ス
然レモ通常ノ遺囑ノ受贈者ハ其遺囑者ノ一身ヲ代理セズ唯其財産ノ
ミチ相續スルモノナリ

之ニ反シテ佛蘭西ノ習慣法ニ於テハ遺囑贈遺ニ因テ相續人ヲ設ケ得
サルヲ以テ其原則トス故ニ此習慣法ニ據レハ相續人ハ正當ノ相續人
ヨリ他ニ是レナキヲ法トス

又他ノ或ル習慣ニ由レハ相續人ヲ選定スルトキハ其遺囑贈遺ノ全部
ヲ無効ト爲スコトアリ或ハ之ヲ無効ト爲サズ單ニ之ヲ包括ノ遺囑贈
遺ト看做シ其選定セラレタル相續人ヲ普通ノ遺囑受贈者トシテ遺囑
者ノ一身ヲ代理セズ唯其財産ノミチ相續シタルモノト爲スノ習慣アリ

諸テ右ノ方法ハ今日佛蘭西ノ民法中ニ採用シタルヤ否ヤヲ見ルニ第

九百六十七條及第千二條ニ據レハ全ク之ヲ採用セズ他ノ規則ヲ取リ
タルナリ故ニ此規則ニ依ルトキハ第一遺囑者ニ於テ如何ナル名義ヲ
以テスルモ其意志ヲ執行シ次ニ遺囑者ニテ相續人ヲ選定シ又ハ單ニ
遺囑贈遺ヲ爲スト稱スルモ常ニ其ニツナカラ同一ノ効ヲ生スルモノ
ト決定セリ是ヲ以テ相續人ノ選定ト遺囑贈遺トハ同一ノ規則ニ從ヒ
同一ノ効ヲ生スヘキ同性質ノ二個ノ贈遺ナリト知ル可シ是レ本條第
二項ハ古ノ法律習慣ヲ改正シテ(遺囑贈遺ハ遺物相續人選定ノ名義又
ハ遺囑贈遺ノ名義ヲ以テ之ヲ爲シタルヲ問ハス云々)ト記シタル所以
ナリ

第四款 包括ノ遺囑贈遺

本款ニ於テハ前款ニ枚舉シタル遺囑贈遺ノ一種類即チ包括ノ遺囑贈
遺ヲ説明セントスルニ在リ諸テ其包括ノ遺囑贈遺トハ如何ナルヤヲ

贈遺及遺囑篇

考フルニ其定義ハ載セテ第千三條ニ在リ曰ク(包括ノ遺囑贈遺トハ遺囑者ノ死去スル時其遺留スル財産ノ全部ヲ一人若クハ數人ニ贈與スル遺囑ノ贈與ヲ云フ)ト此定義ニ因ルトキハ包括ノ遺囑ノ受贈者ハ遺囑者ノ死去スル時其財産全部ヲ獲得スルヲ得可シト雖此意ニ就テハ能ク注意スヘキヲアリ即チ其財産全部ヲ獲得スルノ權利ハ偶生ノモノタルヲ了知スル事是レナリ何チ以テ之ヲ偶生ト言フトナレハ縱令遺囑贈遺ノ名義ハ包括即チ財産ノ全部ナリト雖此之ヲ執行スルニ方リ其全部ヲ與フルヲ能ハサルコトアルカ故ナリ實ニ此遺囑受贈者ノ權利ハ之レト共ニ遺物ノ分派ヲ受クヘキ他ノ相續人又ハ他ノ遺囑ノ受贈者アルトキハ之レカ爲メニ其權利ヲ増減セラル、ヲ得ヘキモノナリ然レモ其増減ハ此遺囑贈遺ノ結果ニシテ其本質ニアラス故ニ此包括ノ遺囑贈遺ハ遺囑者ノ死去シタル時其遺留財産ノ全部ヲ得

ルノ希望心ヲ抱クヲ得ルヤ否ヤヲ考フルニ在リ此ニ於テ假令其希望心ヲ成就スル能ハサルモ其之ヲ抱クヲ得可キニ於テハ之ヲ包括ノ遺囑贈遺ト云フナリ今左ニ其一例ヲ擧ケテ尙ホ其意ヲ明瞭ナラシメントス

例へハ甲ヨリ乙ニ自己ノ財産全部ヲ遺囑ノ贈遺トセリ此場合ニ於テ乙ハ其全部ヲ己レノ所有ト爲スヲ得可キヤ否ヤハ甚ダ確實ナラサルナリ何トナレハ甲ハ其相續人ヲ遺留スルヲアルカ故ナリ然レモ其全部ヲ獲得スルノ希望心ヲ有スルヲ明カナリ何トナレハ仮令甲ニ相續人アルモ甲ヨリ先ニ死去シ或ハ其相續人辭謝スルヲ得ヘキカ故ナリ故ニ甲ノ乙ニ爲シタル遺囑贈遺ハ財産ノ全部ヲ得ヘキ偶生ノ權利ナリ然ル時之ヲ包括ノ遺囑贈遺ト云フナリ

尙ホ能ク他ノ一例ヲ擧ケテ之ヲ説明センニ甲ハ乙ニ自己ノ財産全部

又丙ニ金千圓ヲ遺囑ノ贈遺トセリ茲ニ於テ甲ノ死去スル時其遺物ハ金千圓ノミニシテ他ニ如何ナル財産アルナシ然ル時丙ニ於テ其遺囑贈遺ヲ領承スルトキハ乙ノ領収スヘキモノ更ニ之アルナシ然レハ丙ノ甲ヨリ先ニ死去スル歟又ハ生存スルモ其贈遺ヲ辭謝スルトキハ乙ニ於テ其遺物ノ全部ヲ領収スルヲ得可シ故ニ乙ハ一物ヲモ領収セサルコトアリ又其全部ヲ領収スルコトアリ

此包括ノ遺囑受贈者ハ正當ノ相續人ト均シク死者ノ遺留シタル財産ノ所有權ヲ得可シ故ニ此受贈者ハ左ノ訴權ヲ有ス

- 第一 正當ノ相續人ト結合体ニ存スル時遺物分派ノ訴權
- 第二 他物中ニ入ルヘキ物件ヲ占有スル第三者ニ對シ之ヲ取戻スノ訴權

第三 死者ノ負債主ヲ訴フルヲ得ヘキ對人ノ訴權

包括ノ遺囑受贈者ニテ其贈遺物ノ所有權ニ付キ收握權ヲ有スルヤ否又タ引渡ヲ受クルノ方法ハ第千四條ト第千六條ニ從フ可シ此二條ニ據レハ包括ノ遺囑受贈者カ收握權ヲ有スルハ正當ノ相續人ト共ニ財産ノ分派ヲ受クルト此受贈者獨リ之ヲ受クルトニ因テ同カラサルナリ故ニ正當ノ相續人ト共ニ遺物ノ分派ヲ受クル時其受贈者ハ遺囑者ノ死去ニ依リ直ニ收握權ヲ有セス第千四條ト雖モ其受贈者獨リ遺物ヲ受クヘキトキハ遺囑者ノ死去シタル時直ニ其收握權ヲ有スルナリ第千六條此收握權ヲ有スルト有セサルノ結果ハ吾輩ノ曩ニ相續法ヲ講スルニ當テ畧陳セシヲ以テ知ル可シ

手記ノ遺囑贈遺書又ハ秘密ノ遺囑贈遺書中ニ記シタル贈遺ノ執行ヲ得ント欲スル者ハ如何ナル法式ニ從フヲ要スルヤ此点ニ就テハ第千七條ニ之ヲ記載セリ(遺囑者手記ノ遺囑贈遺書ハ其書中ニ記載シタル

如ク執行スル前ニ其遺物發開ノ地ヲ管轄スル始審裁判所ノ所長ニ之ヲ差出ス可シ○此贈遺書ニ封印アルトキハ所長之ヲ開封シ且ツ其証書ヲ差出シタル事及開封シタル事ト遺囑贈遺ノ模様トヲ調書ニ記シ其証書ヲ裁判所々長ノ別段任シタル公証人ニ預ク可シ又秘密ノ遺囑贈遺書ハ之ヲ裁判所々長ニ差出シ其所長開封ヲ爲シ且其差出シタル事及開封ノ事ト遺囑贈遺ノ模様トヲ調書ニ記シテ公証人ニ預クル事前ニ記スル所ト同一タル可シ但シ其開封ハ其証書ノ表書ヲ記シタル公証人ト姓名ヲ記シタル證人トノ面前ニアテサレハ之ヲ爲ス可カラヌ若シ又其公證人又ハ証人其場ニ在ラサル時ハ之ヲ呼出シテ出席シタル上又ハ呼出シテ猶ホ出席セサル上ニテ開封ス可シ○斯ノ如ク此規則ハ第四款即包括ノ遺囑贈遺ノ部中ニ記載セリト雖モ以下記スル所ノ包括名義ノ遺囑贈遺及特定名義ノ遺囑贈遺ニモ亦適

用スルヲ要ス

右手續ヲ施行スルニ付キ要スル費用ハ渾テ第一千六條ノ規則ニ從フ可シ

第一千四條ニ記スル場合ニ於ケルカ如ク包括ノ遺囑受贈者其贈遺トセラレタル遺物ニ付キ收據權ヲ有セサル時ハ何レノ日ヨリ以來其財産ノ入額ヲ所得ト爲スヲ得ヘキヤ此問題ニハ第一千五條ヲ以テ答フルヲ得可シ故ニ全ク此規則ニ從フヲ要ス
 其他如何ナル財産ヲ以テ死者ノ負債ヲ辨償スルヤ又如何ナル財産ヲ以テ遺囑贈遺ヲ辨償スルヤ又如何ナル割合ヲ以テ負債ノ辨償ヲ擔當スルヤハ第一千九條ニ之ヲ定ム

第五款 包括名義ノ遺囑贈遺

包括名義ノ遺囑贈遺トハ如何ナルモノホルヤヲ按スルニ第一千十條ヲ

贈遺及遺囑篇

之レカ定義ヲ爲セリ故ニ左ニ列記スル場合ニ於テ遺囑贈遺ヲ爲スト
キハ包括名義ノ遺囑贈遺ト云フナリ其場合ハ左ノ如シ

第一 法律ニテ贈遺ト爲スヲ許ス財産ノ一部即チ財産ノ半分又ハ
其三分一ヲ遺囑ノ贈遺トスル時

第二 不動産ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺トスル時

第三 動産ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺トスル時

第四 不動産ノ一部ヲ遺囑ノ贈遺トスル時

第五 動産ノ一部ヲ遺囑ノ贈遺トスル時

第六 死者遺留財産ノ半分又ハ其三分一ヲ遺囑ノ贈遺トスル時

茲ニ包括名義ノ遺囑受贈者ハ其贈遺物件ニ就キ如何ナル訴權ヲ有ス
ルヤヲ考フルニ包括ノ遺囑受贈者ト同一ノ訴權ヲ有ス而シテ其異ナ
ル所ハ此贈遺ノ性質ニ於テ收受シタル財産ノ部分ニ就テノミ其訴權

ヲ有スルナリ然レモ其所有權ニ至リテハ或ハ獨立ノ所有權ヲ得或ハ
結○合○体○ノ所有權ヲ得ルコトアリ其獨立ノ所有權ヲ得ル時ハ則不動産ノ
全○部○又○ハ動産ノ全部等ヲ受領シタル時ニ在リテ結合体ノ所有權ヲ得
ルハ其一部ヲ受領シタル時ニ在ルナリ

此包括名義ノ受贈者ハ前ニ陳タルカ如キ収握權ヲ有セサルニ由リ遺
物ヲ収握シタル者即豫定ノ相續人又ハ其相續人ノアラサルトキハ包
括ノ遺囑受贈者ニ對シ常ニ其遺囑贈遺物ノ引渡ヲ請求スルヲ要ス此
義ニ就テハ後ニ陳述セントスル特定名義ノ遺囑受贈者ニ就テモ同一
ナリトス

然レモ此包括名義ノ遺囑受贈者ハ其贈遺物ノ入額ニ就キ如何ナル日
以來之ヲ收受スルノ權利ヲ有スルヤ民法ハ此一点ニ付キ別段規則ヲ
設ケタルコトナシ故ニ一方論者ハ之ヲ包括ノ遺囑受贈者ト同視シ他ノ

論者ハ之ヲ特定名義ノ遺囑受贈者ト同視スルカ如ク其論ヲ異ニセリ然レモ吾輩ハ之ヲ特定名義ノ遺囑受贈者ト同視スルモノナリ何トナレハ此受贈者ト雖モ特定名義ノ遺囑受贈者ノ如ク善意ノ占有者ニ過キサレハナリ故ニ第千十四條ニ從ヒ其得可キ財産ノ引渡ヲ請求シタル日又ハ其財産ヲ引渡ス者ノ意ヲ以テ之ヲ引渡スヲ承諾シタル日ヨリ後ニアラサレハ其入額ヲ得ント求ムルヲ得サルナリ又死者ノ負債ヲ擔當スルノ割合ハ第千十二條第千十三條ニ定ムル所ノ規則ニ從フヲ要ス

第六款 特定名義ノ遺囑贈遺

特定名義ノ遺囑贈遺ノ定義ハ法律ニ明記セスト雖モ其如何ナルモノナルヤハ第四款第五款ノ意ヲ推究スレハ則容易ニ之ヲ了解スルヲ得可キナリ故ニ特定名義ノ遺囑贈遺トハ包括及包括名義ニアラサル遺

囑ノ贈遺ナリト了解ス可シ是ヲ以テ財産ノ全部ヲ贈遺トセス及包括名義ノ遺囑贈遺六個ノ場合ニ加入ス可カラサル贈遺ハ渾テ特定名義ノ遺囑贈遺ナリトス
 例ヘハ某家屋某地或ハ金百圓ト云フカ如ク特別ニ其遺囑贈遺トスヘキ物件ヲ指定スル時ハ固ヨリ特定名義ノ遺囑贈遺ナリト雖モ管ニ是ノミナラズ某縣地ニ余ノ所有スル總テノ不動産又ハ余ノ屋内ニ現存スル動産ト云フカ如ク指定シタル財産ノ合部ヲ遺囑贈遺トスル時モ亦之ヲ特定名義ノ遺囑贈遺ト云フナリ何トナレハ此贈遺ハ財産ノ全部ト云フニモアラズ又包括名義ノ贈遺トスヘキ六個ノ場合ニ含蓄セサレハナリ
 此特定名義ノ遺囑受贈者ノ權利ハ前二款ノ場合トハ異ニシテ其贈遺ノ目的確定物ニ關スルト唯種類ノミニ關スルトニ從テ或ハ完全ノ所

有權ヲ得或ハ其債權ノミヲ得ルモノトス故ニ此受贈者ノ有スル訴權ニモ左ノ區別アリ

第一 遺囑者カ所有權ヲ有シタル確定物ヲ遺囑贈遺ト爲ストキハ取戻ノ訴權ヲ有スル事

第二 種類ノミノ定マリタル物件ヲ遺囑贈遺トスルトキハ對人ノ訴權ヲ有スル事

第三 何レノ場合ヲ問ハズ遺物中ノ不動産ニ付キ書入質債主ノ訴權ヲ有スル事

此他ノ事項ニ就テハ前陳スル所ニ於テ其如何ヲ窺フニ足ルヘシト信スルニ由リ之ヲ爰ニ畧ス故ニ其詳細ハ第一千十五條以下ニ就テ知ル可シ

第七款 遺囑贈遺ノ執行者

遺囑贈遺ヲ執行スルノ任アル者ハ常ニ遺囑者ノ相續人若クハ包括ノ遺囑受贈者ナリト雖モ若シ遺囑者此等ノ人ニ於テ其執行事務ヲ怠ラサルヤヲ疑懼スルトキハ自己ノ信用スル者ニ此事務ヲ委任スルヲ得可シ此時遺囑贈遺ノ執行ヲ受ケタル者ハ其代理人ナリトス此代理人即チ遺囑贈遺ノ執行者ハ此任ヲ必ス受諾スルヲ要スルモノニアラス然レモ一タヒ之ヲ領承シタル以上ハ此任ヲ拋棄スルヲ得ス何トナレハ委任者ニ於テ自ラ其管理ヲ爲ス能ハサル歟又ハ之ヲ他人ニ委任スル能ハサルトキハ其代理人ハ其職ヲ繼續スルヲ要スルカ故ナリ然レモ又一方ヨリ言フトキハ若シ代理人其職ヲ繼續スルニ於テハ己レニ非常ノ損害ヲ受クヘキニ由リ之ヲ繼續スル能ハサル時ハ拋棄スルヲ得可シ

此遺囑贈遺ノ執行者カ有スヘキ權利左ノ如シ

贈遺及遺囑篇

- 第一 遺物中ノ動産ヲ所持スル事
- 第二 遺囑贈遺ヲ執行スルニ必要ナル高ニ至ルマテ其動産ヲ賣却セシムル事
- 第三 第三者ヨリ遺物中ニ辨濟スヘキ資金及利息銀ヲ領收スル事
- 第四 遺物中ノ金額又ハ動産ノ賣却又ハ死者ノ負債者ヨリ自己ノ手ニ辨濟シタルニ由リ生シタル金高ヲ遺囑贈遺ノ仕拂ニ使
用スル事

又此執行者ノ任テ數人ニ委任シタル時ハ左ノ區別ニ從ヒ其執行ヲ爲
スヲ要ス 第一千三
第一 遺囑ノ贈遺者ニ於テ遺囑贈遺執行者ノ職務ヲ分タル時
此場合ニ於テハ其中ノ一人他人ニ代テ執行スルヲ得可シ斯ノ如ク法
律ノ定メタル所以ハ若シ其數人ノ執行者同時ニ支配夫爲ストキハ實

際甚タ困難ニシテ大ニ害アリト思考シタルニ在ルナリ然レモ遺囑者
ニテ他ノ執行者ヲ差措キ其中一人ニテ執行スルヲ明カニ禁止シタ
ルトキハ其數人ニテ執行スルヲ要ス
右何レノ場合ヲ問ハス執行ノ職務ヲ分タルサル遺囑贈遺ノ執行者ハ
其委任セラレタル動産ニ就キ連帶シテ其責ニ任ス可キヲ要ス
第二 遺囑ノ贈遺者ニ於テ遺囑贈遺執行者ノ職務ヲ分タル時
此場合ニ於テハ執行者ノ各自互ニ其指定セラレタル職務ノ區域内ニ
テ支配スルヲ要ス然ルトキハ前ニ言フカ如キ連帶義務ノ生スルヲナ
シトス

第八款 遺囑贈遺ノ廢棄及其消滅

本款ニ於テハ渾テ遺囑贈遺ノ効ヲ生セサル場合ヲ云フモノニシテ爰
ニ其三個ノ區別アリ即チ無効廢棄消滅是レナリ

贈遺及遺囑篇

遺囑贈遺ノ無効トハ法律上ノ法式ニ從テ之ヲ爲スト雖モ無能力者ノ遺囑ヲ爲シタル歟又ハ能力者ノ遺囑ヲ爲シタルモ法律上ノ法式ニ依ラサル時ヲ云フ此場合ニ於テハ始メヨリ其効ヲ生セサルナリ

遺囑贈遺ヲ爲ス當時ハ適法ナリト雖モ遺囑者ノ意思ノ變更ニ由リ中途ニシテ其効ヲ失フ時ハ之ヲ廢棄ト云フナリ

又適法ノ遺囑贈遺ニシテ其遺囑者ノ意ニ出テサル偶然ノ事件ノ生シタルニ由リ其効ヲ生スルヲ妨クル時之ヲ消滅ト云フ例ヘハ遺囑受贈者ノ無能力トナリタル歟又ハ遺囑贈遺物件ノ滅盡シタル場合ノ如シ

斯クテ此廢棄ハ明カニ爲スアリ又暗ニ爲スアリ其暗ニ遺囑贈遺ヲ廢棄スルトハ法律上或ル所爲ニ付キ遺囑者ノ意思ヲ變更セリト想定スル時ニ在リトス是レヨリ其二種ノ廢棄及消滅ニ就キ説明スルコトアリ

ラントス

○明カニ廢棄ヲ爲ス場合

遺囑者ノ半途ニシテ其意思ヲ變更シ初メ爲シタル遺囑贈遺ヲ廢棄スルニハ其之ヲ廢棄スルノ意ヲ其後ニ認記スル遺囑書ヲ以テ爲シ或ハ一名若クハ二名ノ公證人ヲシテ公正證書ヲ記スル通常ノ法式ニ由テ其意ヲ記載セシムルニ於テ成立ツモノトス是ヲ以テ之ヲ觀レハ明カニ廢棄ヲ爲スノ方法ニハ二種アリトス即チ左ノ如シ

第一 後ニ認記シタル遺囑書ニ由テ廢棄ヲ爲ス事

第二 公証人ノ記シタル證書ニ由テ廢棄ヲ爲ス事

備テ其後ニ認記スル遺囑書ヲ以テ廢棄ヲ爲ストキハ以前ノ遺囑贈遺ヲ廢棄スル爲メ特更ニ其遺囑書ヲ記シタルト又後ニ其廢棄ノ文ヲ包含シタル遺囑贈遺書ヲ以テスルト其遺囑書ノ性質如何ヲ問ハス後ノ

所爲ニ由テ廢棄スルヲ得ヘキナリ故ニ遺囑ノ種類中公正ノ遺囑書ヲ以テ前ノ手記ノ遺囑書又ハ秘密ノ遺囑書ヲ廢棄スルヲ得ヘク或ハ手記又ハ秘密ノ遺囑書ヲ以テ公正ノ遺囑書ヲ廢棄スルヲ得可キナリ又右第二ノ廢棄ノ方法即公正証書ニ由テ廢棄ヲ爲スハ公正ノ遺囑書ヲ記スル例外法ニ據ルニ及ハズシテ通常ノ公正式ヲ以テスルヲ以テ足レリトスルナリ故ニ嘗テ陳述セルヲアリシカ如ク公正ノ遺囑書ヲ記スルニハ公証人一名ト四名ノ証人ヲ以テスル歟然ラサレハ二名ノ公証人ト二名ノ証人ヲ要スト雖モ今此場合ニ於テ廢棄ヲ爲ス公正ノ証書ハ二名ノ証人ト一名ノ公証人又ハ二名ノ公証人ニテ証人ヲ立テズ記認スルヲ得ヘキナリ

○暗ニ廢棄ヲ爲ス場合

暗ニ遺囑贈遺ヲ廢棄スルハ何レモ遺囑者ノ所爲上ニ就テ廢棄ヲ爲シ

タルヤ否ヲ鑒定スルナリ其鑒定ハ獨リ裁判官ニ於テ爲ス可キナリ然レモ其所爲ニ就テハ法律上之ヲ制限セリ其所爲トハ左ノ如シ

第一 前ノ遺囑書中ニテ後ノ遺囑書ニ記シタル贈遺ト反對シ又

ハ兩立シカタキ贈遺ヲ記シタル時

其兩立シカタキ場合トハ一物ヲ再度同一人ノ爲メニ遺囑贈遺ト爲シ後ノ遺囑贈遺ト前ノ遺囑贈遺ト兩立シカタキ時ヲ云フナリ然ル時ハ前ノ遺囑贈遺ヲ爲シタル後遺囑者ノ意思ノ變更ニ由リ前ノ遺囑贈遺ヲ廢棄シタリト爲スナリ例ヘハ甲ニ土地ヲ遺囑贈遺ト爲シタル後此同人ニ第二ノ遺囑書ヲ以テ其同地ノ用収權ヲ遺囑贈遺トス此場合ニ於テ其兩度ノ贈遺ハ兩立シカタキニ由リ其第一ノ遺囑ハ第二ノ遺囑ニ由テ廢棄シタリト爲スナリ又三個ノ遺囑贈遺ノ反對シタル場合トハ兩人ニ遺囑贈遺ヲ爲シタル

時其第二ノ遺囑贈遺ハ遺囑者ニ於テ初メノ意ヲ變シ其第一ノ遺囑贈遺ヲ廢棄セリト想定スルヲ得ヘキ性質ノ遺囑ヲ云フナリ然レモ如何ナル場合ニ於テ此第二ノ遺囑贈遺ハ果シテ第一ノ遺囑ヲ廢棄シタルヤ否ヲ知ルヤ此点ニ就テハ法律ニ明文ナシ故ニ裁判官ハ其時ノ模様ニ由リ事實ニ就テ之ヲ判別スルヲ要スルナリ

第二 一タヒ遺囑贈遺ト爲シタル物ノ全部又ハ一部ノ所有權ヲ他人ニ讓渡シタル時

此場合ニ於テハ假令遺囑者ニ於テ買戻ノ約束ヲ爲シテ以テ其讓渡ヲ爲シ其物件ヲ取戻ストキト雖モ初メノ遺囑ヲ廢棄シタルモノト爲スナリ蓋シ法律ハ此規則ヲ設ケテ訴訟ノ乱起ヲ防キタルナリ第千三八條ニ記スルトコロノモノ即チ是レナリ

○遺囑贈遺ノ消滅

今茲ニ遺囑贈遺ノ消滅スル場合ヲ考究スルニ第千三十九條ヨリ第千四十三條マテノ間ニ六個ノ場合アルヲ知ル即チ左ノ如シ

第一 遺囑受贈者ノ遺囑者ヨリ先ニ死去シタル時

第二 未必條件ヲ目的トシテ遺囑贈遺ヲ爲シタル時ニ方リ其受贈者ハ遺囑者ヨリ殘存スト雖モ其未必條件ノ生セサル前ニ死去シタル時

第三 遺囑贈遺ヲ確定ト爲スニ必要ナル未必條件ノ生セサルコトノ決定シタル時

第四 遺囑受贈者ニテ其贈遺ヲ辭謝シタル時

第五 遺囑贈遺ヲ受クルノ能力ヲ失フタル時例ヘハ遺囑者ノ死去スル時遺囑受贈者ニ於テ無期ノ施休ノ刑ヲ受ケ
第千八百五
三十一日ノ法律
又ハ其未タ懐胎セサル場合ノ如シ
第三條ニ據ル
贈遺及遺囑篇

第六 遺囑贈遺ト爲シタル物件遺囑者ノ生存中ニ全ク滅盡シタル時

若シ相續人ノ所爲又ハ過失コテ其物件ノ滅盡シタルトキハ吾輩他日契約篇ヲ説明スルニ當リ了解スルコトアルヘキ第一千二百四十五條及第一千三百二條ノ規則ヲ適用ス可シ

右ニ開陳シタル種々ノ場合ニ於テ遺囑ノ消滅シタル時之レカ爲メニ其利益ヲ受クヘキ人ハ如何

此利益ヲ受クヘキ者ハ則遺囑ノ消滅セシテ其効ヲ生スルニ於テハ不利益トナル人ニアルナリ故ニ一般ノ場合ニ就テ言ヘハ特定名義ノ遺囑贈遺ノ消滅スルトキハ時トシテハ包括ノ遺囑受贈者ノ利益トナリ時トシテハ包括名義ノ遺囑受贈者ノ利益トナリ時トシテハ正當ノ相續人ノ利益トナル可シ是レ他ナシ前ニ言フカ如ク是等ノ人ハ則若

シ其特定名義ノ遺囑贈遺ノ消滅セサルニ於テハ其部分ニ付キ利益ヲ失フヘキ者ナルカ故ナリ

○遺囑贈遺ヲ取消ス事

吾輩曩ニ生存中ノ贈遺ハ後ニ子ノ出生シタルニ由リ之ヲ取消スヘキヲ述タリ今此遺囑贈遺モ亦其原由ニ由リ取消シト爲スヲ得ヘキヤ此法律ニ就テ之ヲ考フルニ取消スヲ得スト決定セサルヲ得ストナレハ子ノ出生シタル場合ハ遺囑ヲ取消スノ原由中ニ列記セサルヲ以テ見レハ取消ノ原由ニハ法律ヲ比附援引スルヲ得サルカ故ナリ然レモ後ニ子ノ出生シタル時遺囑ヲ取消ス可カラスト爲シタルハ道理ニ於テ甚タ不可ナリ故ニ之ヲ法律上ニ記セサルハ立法者ノ遺忘シタルモノト思考セサルヲ得サルナリ是ヲ以テ例ヘハ或ル人ニ於テ子ナシト信シテ遺囑贈遺ヲ爲シ婦ノ妊娠シタルヲ知ラスシテ死去シタルトキ

ハ後ニ其子ノ出生シ壯健ナルモ其遺囑贈遺ハ確定シタルモノコシテ取消スヲ得サルカ如シ之ヲ生存中ノ贈遺ノ場合ニ於テ述タル趣旨ニ就テ考フレハ實ニ不條理ナリトス然レモ遺囑贈遺ハ生存中ノ贈遺ト均シク左ノ原由アルニ於テハ取消スヲ得ヘキナリ

第一 條件ヲ執行セサル場合

第二 遺囑贈遺者ニ於テ其遺囑者ノ恩義ヲ忘却シタル場合

遺囑ノ受贈者ニ於テ死者ノ名譽ヲ毀害シタル時遺囑取消ノ訴ヲ爲サントスルニハ罪ヲ犯シタル一年内ニ施行スルヲ要ス此起算点ハ總テ第九百五十七條ノ規則ニ從フ可シ先ツ此ニ於テ遺囑贈遺ノ概畧ヲ講了セリトス

第六章 贈遺者又ハ遺囑者ノ孫又ハ兄弟姉妹ノ子

ノ爲メニ爲シタル贈遺

本章ニ言ハント欲スル贈遺ハ則贈遺轉附ナリ

シユブスチユシヨシ

偕此贈遺轉附トハ一人ニ贈遺ヲ爲シタル後之レニ其財產ヲ他ノ指定シタル人ニ讓與フヘキ義務ヲ負ハシムル所ノ贈遺ヲ云フ故ニ贈遺轉附ニハ三人ノ併立スルヲ要ス贈遺者及負任者即チ贈遺セラレタル物ヲ他人ニ與フルノ任ヲ負フタル者其他被讓者即チ讓與ニ由テ利益ヲ受クル者はレナリ

此贈遺ハ第八百九十六條ニ於テ禁止シ第八百九十七條ニ於テ本章ノ場合ニ限リ例外トシテ之ヲ許可シタルモノナリ斯クテ之ヲ禁止シタルハ法律上彼我ノ間ニ贈遺ヲ爲スヲ禁シタル場合ニ當リ間接ノ贈遺ヲ爲スヲ防クニ在リ然レモ又一方ニ就テ考フレハ孫又ハ甥姪ノ爲メニ贈遺轉附ヲ爲スハ情愛上防止ス可カラサルモノコシテ且至當ナル

ヲ以テ之ヲ許スナリ故ニ第千四十八條ニ左ノ如ク記載ス曰ク(父母ハ其隨意ニ處置スルヲ得ヘキ財産定分ノ全部又ハ一部ヲ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ其子一人又ハ數人ニ與ヘ後ニ之ヲ其受贈者ヨリ生出シ又ハ出生スヘキ子ニ傳フ可キ約定ヲ爲スヲ得可シ但其一等親ニ限ルト)

本章ノ事項ニ就テハ數ヶ條ノ規則アリト雖モ今茲ニ之ヲ畧シテ陳述セス故ニ第千四十九條以下ニ就テ之ヲ知ル可シ

第七章 父母又ハ其他ノ尊屬親其卑屬親ノ間ニ分

派ヲ爲ス事

本章ハ父母又ハ祖父祖母等ノ如キ尊屬親ニ於テ自己ノ財産ヲ自ラ其子孫ニ分派スル場合ヲ規定ス一般ノ場合ニ於テ父母及祖父祖母等ノ財産ハ其死後ニ至リ相續權ヲ有スル子孫ニ於テ遺物分派ノ効ニ由リ之

ヲ享有スト雖モ今此場合ニ於テハ父母又祖父母ノ生存中自ラ之ヲ行フヲ許スナリ法律上ニテ其之ヲ許可スルノ理由ハ凡ソ不分体ニ存スル財産ヲ數人ノ間ニ分派スルハ容易ナラサルコトニシテ之レカ爲メニ其數人ノ間ニ爭ヲ生シ往々其交ヲ絶ツコトアリ今ヤ一親屬間ニ此ノ如キ事件ノ生スルハ實ニ忌諱スヘキ事ナリ法律ハ宜シク此弊ヲ避ケサルヘカラス是ヲ以テ之ヲ其親屬長即チ父母及祖父母ニ委任シテ其子孫ノ間ニ其財産ヲ分派セシムルコトアリ
斯クテ此分派ヲ爲スニハ二個ノ方法アリ遺囑又ハ生存中ノ分派是レナリ

若シ其尊屬親ニテ遺囑ヲ以テ分派ヲ爲サントスルトキハ法律ニ定メタル遺囑ノ法式ニ從フヲ要ス故ニ手記ノ法式又ハ公正ノ法式又ハ秘密ノ法式ニ由ル可シ然ル時ハ皆吾輩ノ既ニ陳述シタル遺囑ノ規則ニ

從フヲ要ス

若シ又其尊屬親ニ於テ生存中ノ所爲ニ由リ分派ヲ爲サントスルトキハ生存中ノ贈遺ニ就テ定メタル法式ニ從フヲ要ス然レモ爰ニ注意スヘキハ假令尊屬親ニ於テ自己ノ財産ヲ其子孫ノ間ニ生存中ノ所爲又ハ遺囑ニ由リ分派ヲ爲スト雖モ之ヲ以テ通常生存中ノ贈遺又ハ通常ノ遺囑ノ贈遺ト看做スヘカラサルヲ要スルニ在リ唯此場合ニ於テハ尊屬親ノ死去シタル時ニ子孫ノ爲スヘキ所爲ヲ尊屬親自ラ今之ヲ行フニ過キサルナリ故ニ尊屬親ニ於テ爲シタル分派ハ若シ尊屬親ニテ之ヲ爲サ、ルトキハ其死去スルノ時ニ至リ子孫自ラ爲サ、ルヲ得サル分派ヲ爲シタルモノト思考スルヲ要ス是ヲ以テ左ノ結果ヲ生ス

第一 尊屬親ニ於テ其分派ヲ爲スニハ第八百三十二條ニ從ヒ成

ル可ク不動産ヲ細小ニ分割スルヲ避ケ各自ノ股分中ニ同質同價ノ動産及不動産ヲ入レ且同種ノ權利ヲ加フヘキヲ要ス

第二 尊屬親ノ爲シタル分派中ニ假令其死去ノ時遺留シタル財産ヲ含蓄セスト雖モ其分派ヲ取消トセス其含蓄セサル財産ハ第八百八十七條ニ從ヒ分派スルヲ要ス

第三 尊屬親ノ財産分派ヲ受クヘキ權利ヲ有スル總テノ人ノ間ニ分派ヲ爲サ、ルトキハ其分派ヲ無効トス故ニ尊屬親ニテ其分派ヲ爲ス時ニ成立スル子孫ノミナラズ正當ノ相續人ト稱スヘキ者ニモ亦平等ニ分派スルヲ要ス

第八章 婚姻ノ契約ニ由リ夫婦及ヒ婚姻ヨリ生スヘキ子ノ爲メニ爲ス生存中ノ贈遺

法律ハ常ニ社會ノ人ヲシテ普ネシ婚姻ヲ爲サシメンコトヲ欲スルニ贈遺及遺囑篇

由リ婚姻ノ事ニ就テハ何レノ場合ヲ問ハス庇護ヲ與フルコト明カナ
リ今本章ノ設ケアルモ亦其庇護ノ意ニ出タルナリ何トナレハ贈遺者
及受贈者ニ關スル贈遺ノ規則ヲ簡易ニシテ之ヲ爲スニ易スク之ヲ受
クルニ難カラシメサルカ故ナリ故ニ本章ノ規則ヲ設ケタルノ意ハ通
常ノ生存中ノ贈遺ニ關スル法律ノ意ト全ク相反スルナリ其理由ハ通
常ノ生存中ノ贈遺ニ就キ法律ノ精神ハ成ルヘク之ヲ爲サシメサルノ
意ニ傾キ若シ之ヲ爲サントスルニ於テハ嚴式ノ法ヲ設ケテ此施行ヲ
容易ナラシメサルコアルナリ

右述フルトコロノ理由ナルニ由リ婚姻ノ爲メニ爲シタル生存中ノ贈
遺ハ種々ノ關係ヨリ通常ノ生存中ノ贈遺トハ大ニ異ナル所アリ吾輩
今其點ヲ此ニ開陳セントス

第一 婚姻ノ爲メニ爲ストコロノ贈遺ハ贈遺者一己ノ意ニ關ス

ル條件ヲ以テ施行スルヲ得ヘシ故ニ此贈遺ハ通常ノ贈遺ノ如
ク其本質確定ノモノニアラサルナリ

第二 婚姻ノ爲メニ爲シタル贈遺ニハ將來ニ生スル財産ヲ含蓄
スルヲ得可シ

第三 婚姻ノ爲メニ爲シタル贈遺ハ嚴式ニ從フテ要セス

第四 婚姻ノ爲メニ爲ス贈遺ハ未ダ懐胎セサル者ノ爲メニ施行
スルヲ得ヘシ

第五 婚姻ノ爲メニ爲シタル贈遺ハ其贈遺者ニ對シ恩義ヲ忘レ
タルノ原由アルヲ以テ取消スヲ得サルナリ

右ニ陳述セル五個ノ場合ノ外ハ渾テ通常ノ生存中ノ贈遺ノ規則ニ從
フヲ要ス

右開陳スル所ニ就キ今爰ニ於テ考フルニ法律上ニテ婚姻ノ爲メニ爲

ス贈遺トスヘキモノ四種アリトス即チ左ノ如シ

第一 現在所有スル財産ヲ贈遺トスル事

第二 將來ニ生スヘキ財産ヲ贈遺トスル事

第三 現在及將來ノ財産ヲ合セテ贈遺トスル事

第四 贈遺者一己ノ意ニ關スル條件ヲ以テ贈遺ヲ爲ス事

右講述スル所ハ唯本章ノ大体ナルニ由リ其他ノ詳細ナル規則ハ第千八十三條以下ニ就テ之ヲ知ル可シ殊ニ此贈遺ノ無効トナル場合及其減殺ヲ爲スノ規則ハ第千八十八條第千八十九條第千九十条ニ就テ了解ス可シ

第九章 夫婦財産契約又ハ結婚中夫婦ノ間ニ爲ス

トコロノ贈遺

吾輩今本章ヲ分リ三段ト爲シ第一段ヲ夫婦財産契約ヲ以テ前約夫婦

ノ間ニ爲ストコロニ生存中ノ贈遺トシ第二段ヲ結婚中夫婦ノ間ニ爲ストコロノ生存中ノ贈遺トシ第三段ヲ夫婦間ニ生存中ノ贈遺ト爲スヲ得ヘキ財産ノ定分トス其第一段ハ第千九十一条乃至第千九十三条及第千九十五条ニ第二段ハ第千九十六条及第千九十七条ニ又其第三段ハ第千九十四条及第千九十八条以下ニ規定セリ故ニ吾輩是レヨリ其各段ニ就キ其畧ヲ講述セント欲ス

○第一段 夫婦財産契約ヲ以テ前約夫婦ノ間ニ爲ストコロノ生存中ノ贈遺

婚姻ノ契約ノミヲ爲シテ未タ其式ヲ履行セサル者法律上之ヲ稱シテ前約夫婦ト云フ此前約夫婦ハ第千九十一条ニ從ヒ夫婦財産契約項ハ第三編第四卷ヲ講述スルニ以テ其ノ相當ト思量スル生存中ノ贈遺ヲ相互ニ爲シ又ハ一方ヨリ一方ニ之ヲ爲スコトヲ得可シ故ニ現在ノ

財産ヲ生存中ノ贈遺トスルヲ得ヘキハ勿論將來ノ財産又ハ現在及將來ノ財産ヲ合セテ贈遺ト爲スヲ得可ク其他贈遺者一己ノ意ニ關スル條件ヲ以テ贈遺ヲ爲スヲ得可キナリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ前章ノ場合ニ於テ第三者ヨリ前約夫婦ニ爲スヲ得ヘキ贈遺ハ皆此場合ニ於テモ亦執行スルヲ得可シトス

第一千九十二條ニ前約夫婦ノ間ニ爲シタル現在ノ財産ノ贈遺ハ受贈者殘存ノ約定ヲ以テ爲シタルモノト看做ス可カラスト記セリ故ニ此受贈者ニシテ假令其贈遺者ヨリ前又ハ後ニ死去スルモ其一旦贈遺トセラレタル財産ハ自己ノ他ノ財産ト共ニ其相續者ニ移轉スルヲ得ヘキナリ

今此ニ於テ其受贈者殘存ノ約定云々ノ意ハ無用ニシテ之ヲ明記セサルモ此約定ヲ以テ贈遺ヲ爲セリト看做ス能ハサルノミナラス法律ニ

之ヲ明記セサル以上ハ通常贈遺ノ効ヲ生シ即チ現在ノ財産ヲ生存中ノ贈遺ト爲ストキハ其受贈者ニ現在ノ確定シタル權利ヲ讓渡スハ通常ノ規則ナレハナリ然レモ法律上特更ニ此明文ヲ記シタル所以ハ佛蘭西前來ノ法律ヲ矯正スルノ意ニ出タルナリ其法律ニ從ヘハ現在ノ財産タルト將來ノ財産タルトナ同ハス總テ夫婦間ニ爲ストコロノ贈遺ハ贈遺者ヨリ其受贈者ノ殘存シタルニアラサレハ其効ナカルヘキ約定ヲ以テ爲シタルモノト看做セシニ由リ若シ其受贈者タル配偶者ノ贈遺者タル配偶者ヨリ前ニ死去スルトキハ一旦其贈遺ト爲シタル財産ハ其贈遺者タル配偶者ニ復歸スルナリ之ニ反シテ當時ノ習慣法ニ從ヘハ其受贈者殘存ノ約定ヲ以テ贈遺ヲ爲シタルモノト看做サスシテ其通常ノ効ヲ生スルモノト爲セリ是ニ於テ乎此民法立法者ハ前來ノ成文法ヲ廢止シ其習慣法ヲ採用シタルヲ以テ古法ニ成立セシニ

原則中何レニ從フタルヤノ疑團ヲ避クル爲メニ之レヲ明示シタルナ
 リ
 故ニ今日ハ夫婦財產契約ヲ以テ前約夫婦間ニ現在ノ財產ヲ生存中ノ
 贈遺ト爲ストキハ第三者ヨリ前約夫婦ニ現在ノ財產ヲ贈遺ト爲スニ
 就キ定メタル規則及其法式前第八章ト同一ノ法式規則ニ從フヲ要ス
 又將來ノ財產ヲ贈遺ト爲スニ就キ前章第千八十二條ト第千八十三條
 ニ現在及將來ノ財產ヲ合セテ贈遺ト爲スニ就キ前章第千八十四條ト
 千八十五條ニ定メタル規則及其法式ハ夫婦財產契約ヲ以テ前約夫婦
 間ニ爲シタル右同性質ノ生存中ノ贈遺ニモ亦適用スルヲ得可キナリ

○第二段 結婚中夫婦ノ間ニ爲ストコロノ生存

中ノ贈遺

第千九十六條ニ就キ此場合ニ記スル生存中ノ贈遺ノ性質ヲ考フルニ

是レ迄既ニ開陳シ來リタル生存中ノ贈遺ト大ニ異ナル所アリ今日迄
 陳述シタル生存中ノ贈遺ハ受贈者殘存ノ約定ヲ以テ贈遺ヲ爲スノ外
 ハ其贈遺ノ法律ニ適スルコト於テハ直ニ確定ノ効ヲ生シ何人ト雖モ之
 ヲ取消スヲ得サル可シト雖モ今此結婚中夫婦間ニ爲ス生存中ノ贈遺
 ハ其性質常ニ取消スヲ得ヘキモノトス此ノ如ク贈遺者ニ於テ隨意ニ
 取消スヲ許可シタル法律ノ意ハ則夫婦ノ熱愛及一方配偶者ノ濫情
 ニ溺レテ妄リニ贈遺ヲ爲シ又ハ苛責ヲ受ケタル爲メ贈遺ヲ爲スヲ屢
 ヲ之レアルニ由リ此危害ヲ醫スル爲メニ此規則ヲ設定シタルニアル
 ナリ故ニ此場合ニ於テハ其贈遺ヲ取消シ其遺物ヲ取戻スヲ自由ナリ
 トス而シテ此取消ノ訴ヲ爲スニハ通常ノ場合ト異ニシテ夫又ハ裁判
 所ノ免許ヲ得ス其贈遺ヲ取消スヲ得可キナリ
 今ヤ結婚中夫婦間ニ如何ナル贈遺ヲ爲スヲ得ヘキヤヲ考フルニ前述

シタル如キ夫婦財産契約ニ由リ前約夫婦ノ間ニ爲ステ得ヘキ贈遺ハ皆爲ステ得可シトス然レモ其夫婦財産契約ヲ以テ前約夫婦間ニ爲ストコロノ贈遺ト結婚中夫婦間ニ爲ストコロノ贈遺トノ間ニハ數箇ノ差異アリ即チ左ノ如シ

第一 前約夫婦間ニ爲ストコロノ生存中ノ贈遺ハ全ク確定スト雖モ結婚中夫婦間ニ爲ストコロノ生存中ノ贈遺ハ其性質取消スヲ得ヘキモノトス

此區別ヲ設ケタルノ趣旨ハ結婚前ニ於テハ前約夫婦ハ各々獨立ナルヲ以テ隨意ニ契約ヲ爲ステ得可シト雖モ結婚後ハ之レト同シカラスシテ其配偶者一方ハ他ノ配偶者ニ對シテ其權ヲ專ラニスルニ由リ其爲ストコロノ贈遺ハ全ク自由ニ出タルモノニアラス故ニ法律ハ其贈遺ヲ取消スノ原則ヲ設ケテ以テ此危險ヲ豫防

シタルナリ

第二 夫婦財産契約ヲ以テ前約夫婦ノ間ニ爲ストコロノ生存中ノ贈遺ハ其受贈者ニ於テ領承ノ意ヲ述フルニ及ハスト雖モ結婚中夫婦間ニ爲ストコロノ生存中ノ贈遺ハ其領承ノ意ヲ述フルヲ要ス

第三 前約夫婦間ニ爲ストコロノ現在ノ財産ノ贈遺ハ受贈者ノ殘存スル約定ヲ以テ爲シタルモノト看做サス故ニ受贈者ノ贈遺者ヨリ前ニ死去スルモ其贈遺ヲ無効ト爲サス其贈遺トセラレタル物件ヲ自己ノ相続人ニ讓渡スヲ得ヘキナリ之ニ反シテ結婚中夫婦間ニ爲シタル生存中ノ贈遺ハ假令現在ノ財産ノミヲ贈遺ト爲シタルトキト雖モ常ニ取消スヲ得ヘキモノトス故ニ受贈者ノ贈遺ヨリ前ニ死去スルトキハ贈遺者ハ素ヨリ隨意ニ其贈遺ヲ取消

スヲ得可キナリ

○第三段 夫婦間ニ生存中ノ贈遺ト爲スヲ得ヘキ
財産ノ定分

此夫婦間ニ生存中ノ贈遺ト爲スヲ得ヘキ財産ノ定分ハ之ヲ定メタル
通常ノ場合即チ相續篇ヲ説明スルニ當リテ陳述シタルカ如ク贈遺者
死○去○ノ○時○ニ○就○キ○其○資○産○ト○相○續○人○ト○ニ○比○較○シ○之○ヲ○定○ム○ル○モ○ト○ス○又○此
定分ハ贈遺ノ性質即チ現在ノ財産又ハ將來ノ財産ノ贈遺又ハ現在ト
將來ノ財産トチ合セテ爲ストコロノ贈遺ヲ爲シタルニ關係セサルノ
ミナラス其贈遺ハ夫婦財産契約ヲ以テ爲シタルヤ又ハ結婚中ニ爲シ
タルヤ又ハ生存中ニ爲シタルヤ又ハ遺囑ヲ以テ爲シタルヤチ區別ス
ルニ及ハサルナリ然レモ此定分ヲ定ムルニハ左ノ三個ノ場合チ區別
スルヲ要ス

第一 贈遺者ナル配偶者ニ於テ一人若クハ數人ノ尊屬親ヲ遺留シ
子孫ナクシテ死去シタル場合 第九十四條

此場合ニ於テハ其配偶者ニ他人ニ贈遺スルヲ得ヘキ部分ト尊屬親ニ
遺留スヘキ財産ノ用收權トチ贈遺スルヲ得可キナリ語ヲ換ヘテ之ヲ
言ヘハ兩系ニ尊屬親ヲ遺留シタルト唯一系ニ就テノミ尊屬親ヲ遺留
シタルトニ從ヒ財産ノ半分又ハ四分ノ三其他尊屬親ノ爲メニ遺留ス
ヘキ財産半分又ハ四分一ノ用收權ヲ配偶者ニ贈遺トスルヲ得ヘキナ
リ
此規則ニ由レハ此場合ニ於テ尊屬親ハ常ニ虛所有權ノミチ相續スル
ニ過キサルヲ以テ實際ハ如何ナル利益ヲ受クルコトナキカ如シ何トナ
レハ尊屬親ハ必ス其嫁婚ヨリモ老齡ナルヲ以テ自己ノ相續シタル財
産ニ就キ用收權ヲ有スル者ヨリ前ニ死去スルコト多キカ故ナリ是ヲ以

テ法律學者ハ多ク此規則ヲ駁難セリ

第二 贈遺者ナル配偶者ニ於テ子孫ヲ遺留シテ死去シタル場合千

九十四條第
二項ノ場合

此場合ニ於テハ配偶者ヨリ配偶者ニ全所有權ノ四分一ト他ニ四分一
ノ用収權トヲ贈遺シ又ハ單ニ財產半分ノ用収ヲ贈遺ト爲スヲ得可シ
故ニ甲ニ千圓ノ資産アル時ハ其配偶者ニ全所有權ヲ二百五十圓及他
ノ二百五十圓ニ付キ用収權ヲ贈遺スルヲ得可ク然ラサレハ單ニ五百
圓ニ付キ用収權ノミヲ贈遺ト爲スヲ得可キカ如シ

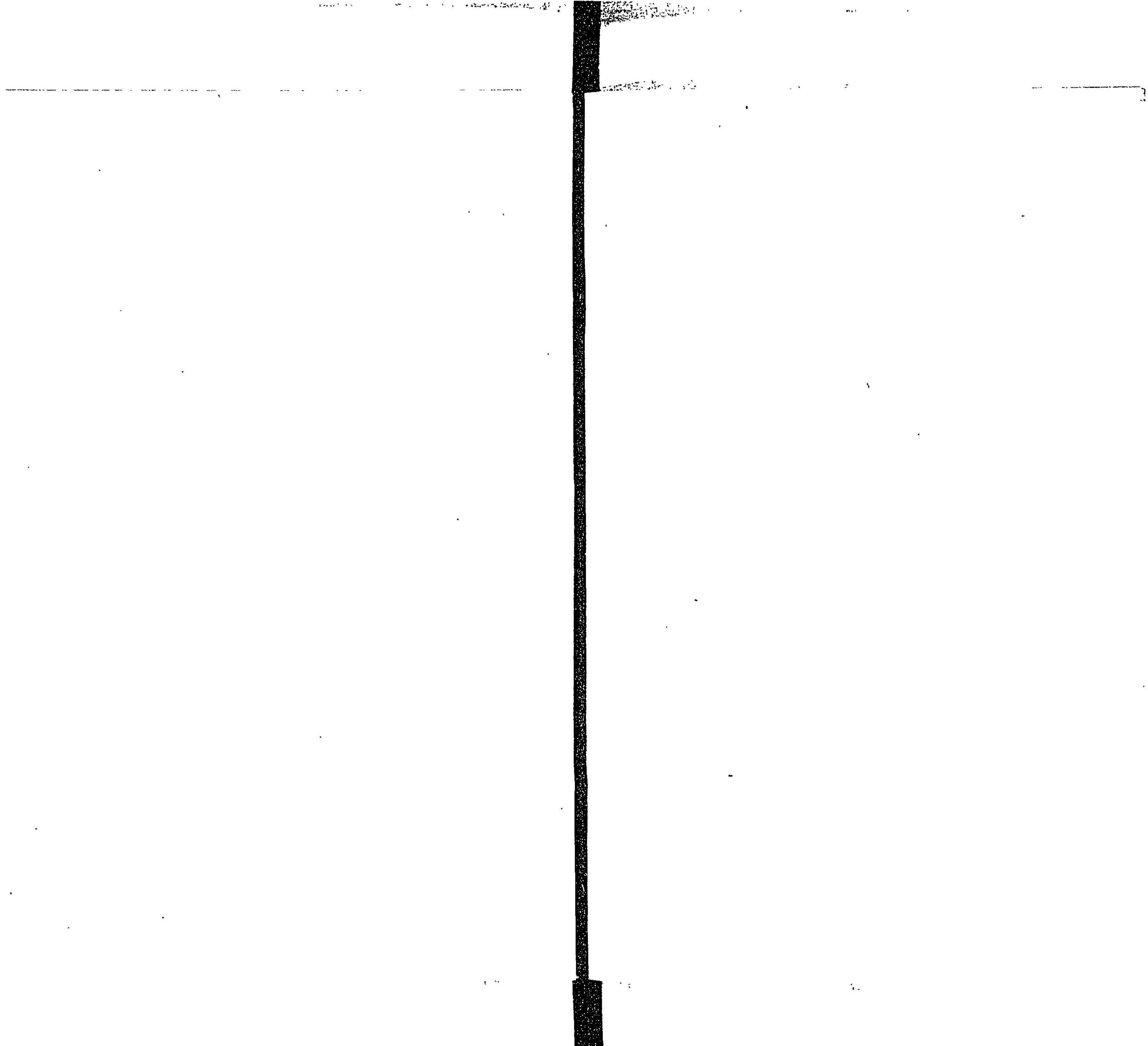
第三 贈遺者ナル配偶者ニ於テ前婚ノ子ヲ遺留シタル場合第十八條

此場合ニ於テハ其配偶者ヨリ他ノ配偶者ニ前婚ノ子中ニテ最モ少量
ノ股分ヲ受クヘキ部分ニ等シキ財產ヲ贈遺トスルヲ得可シ然レモ何
レノ場合ヲ問ハス其部分ハ四分ノ一以上ニ超過スルヲ許サレナリ

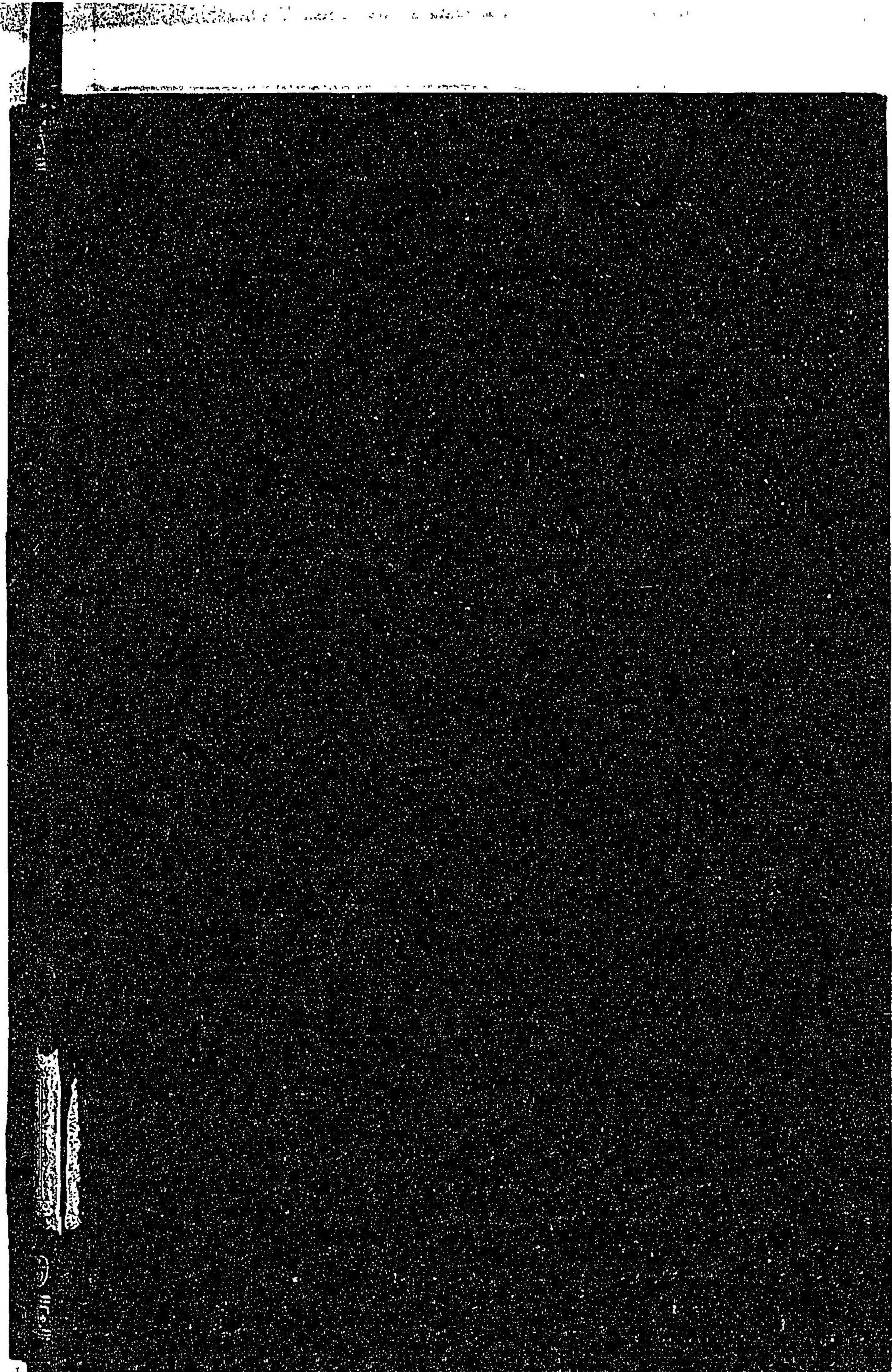
例ハ再婚ヲ爲シタル配偶者ニ三人ノ前婚ノ子アルトキハ其新配偶
者ニ其子ノ受クヘキ一部即チ財產四分ノ一若シ四人ノ子アルトキハ
五分ノ一若シ又五人ノ子アルトキハ六分ノ一ヲ贈遺トスルヲ得可シ
然レモ之ニ一人又ハ二人ノ子アルトキハ其子ノ受クヘキ部分ニ等シ
キ一部ヲ贈遺トスルヲ得ス何トナレハ其一人ノ子アル時此一部ハ財
產ノ半分トナリ又二人ノ子アル時ハ財產三分ノ一トナルヲ以テ法律
ニ定メタル夫婦間ニ贈遺トスヘキ定分即四分ノ一ヲ超過スルカ故ナ
リ是ヲ以テ前婚ノ子一人又ハ二人ヲ有スル者ハ其配偶者ニ自己ノ財
產四分ノ一以上ヲ贈遺トスルヲ得サルナリ
若シ前婚ノ子皆平等ノ部分ヲ受ケス其受クヘキ部分ニ異同アル時ハ
其子中ニテ最モ少量ノ部分ヲ受クヘキ者ノ部分ニアラサレハ其配偶
者ニ贈遺トスルヲ得サルモノトス

右開陳シタル所ニ就テ先ツ夫婦間ニ生存中ノ贈遺ト爲ヌヲ得ヘキ財
産ノ定分ヲ知ル可シ法律ハ此定分ヲ定メタル後ニ於テ此規則ヲ避ク
ルトコロノ詐詭ヲ豫防スル爲メニ第一千九十九條第一千百條ヲ設定セリ
而シテ其方法ハ此二條ノ文ニ就テ之ヲ知ル可シ
吾輩此ニ於テ既ニ生存中ノ贈遺及遺囑ノ贈遺ヲ講了シ且此次ノ第三
卷契約篇ハ未ダ講義中ニ就キ是レヨリハ第五卷夫婦財產契約及夫婦
相互ノ權ニ移リテ説明スルヲアソトス

相續篇并ニ贈遺及ヒ遺囑篇講義終



38
118





034478-000-2

38-116

仏蘭西民法相続及贈遺遺囑編講義

矢代 操/述

M23?

BBL-1086



